3-218-492-**04** (1)

Video Projector

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

BRAVIA

VPL-VW60

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4 ～ 9 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

5 年に 1 度は、内部の点検を、ソニーの相談窓口にご相談ください（有料）。

故障したら使わない

すぐに、ソニーの相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたりキャビネットを破損したときは**

❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ ソニーの相談窓口に連絡する。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意

火災

感電

高温

破裂

手を挟まれないよう注意

行為を禁止する記号

接触禁止

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

アース線を接続せよ

目次

各部の名前

接続と準備

見る

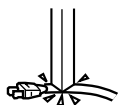
メニュー画面で調整や設定をする

その他

⚠警告

下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

電源コードを傷つけない

禁止

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、ソニーの相談窓口に交換をご相談ください。

指定された電源コード、接続ケーブルを使う

注意

取扱説明書に記されている電源コード、接続ケーブルを使わないと、火災や感電、故障の原因となることがあります。

内部を開けない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、キャビネットや裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の調整や設定、点検、修理はソニーの相談窓口にご相談ください。

光源用ランプ交換は光源用ランプが充分に冷えてから行う

高温

電源を切った直後は光源用ランプが高温になっており、さわるとやけどの原因となることがあります。光源用ランプ交換の際は、電源を切ってから 1 時間以上たって、充分に光源用ランプが冷えてから行ってください。

内部に水や異物を入れない

禁止

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、ソニーの相談窓口にご相談ください。

排気口、吸気口をふさがない

禁止

排気口、吸気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。また、手を近づけるとやけどをする場合があります。
風通しをよくするために次の項目をお守りください。
- 壁から 30cm 以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 布などで包まない。
- 立てて使用しない。

レンズの前に遮蔽物を置かない

禁止

投影中にレンズのすぐ前で光を遮らないでください。遮光した物に熱による変形など影響を与える可能性があります。

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

プラグをコンセントから抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プロジェクターの上に水が入ったものを置かない

禁止

内部に水が入ると火災や感電の原因となります。

長時間の外出、旅行のときは、電源プラグを抜く

プラグをコンセントから抜く

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグおよびコネクターは突きあたるまで差し込む

指示

まっすぐに突きあたるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

幼児の手の届かない場所に置く

禁止

本体の高温部でやけどしたりする場合があります。
お子様がさわらないようにご注意願います。

床置き、または天井つり金具を使った天井つり以外の設置をしない

禁止

それ以外の設置をすると火災や大けがの原因となることがあります。

天井への取り付け、移動は絶対に自分でやらない

禁止

天井への取り付け、移動は必ずソニーの相談窓口にご相談ください（有料）。
天井の強度不足、取り付け方法が不充分のときは落下し大けがの原因となります。必ずソニー製のプロジェクターサスペンションサポートをご使用ください。特約店の方は、取り付けを安全に行うために、必ず本機、およびプロジェクターサスペンションサポートの取付説明書の注意事項をお読みください。

電源コードのアース端子からはずした絶縁キャップなどの小さな部品は、幼児が飲み込む恐れがあるので、手の届かないところに保管する

指示

万一誤って飲みこんだときは、窒息する恐れがありますのでただちに医師にご相談ください。

安全アースを接続する

アース線を接続せよ

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

⚠注意　下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えることがあります

不安定な場所に設置しない

禁止

ぐらついた台や棚の上、あるいは傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

水のある場所に置かない

水ぬれ禁止

水が入ったり、濡れたり、風呂場などで使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用や、海岸、水辺でのご使用は特にご注意ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、熱器具の近くに置かない

禁止

火災や感電の原因となることがあります。

スプレー缶などの発火物や燃えやすいものを排気口やレンズの前に置かない

禁止

火災の原因となることがあります。

雷が鳴り出したら、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

アジャスター調整時に指を挟まない

手を挟まれないよう注意

アジャスター調整は慎重に行ってください。アジャスターに指を挟み、けがの原因になることがあります。

レンズをのぞかない

投影中にプロジェクターのレンズをのぞくと光が目に入り、悪影響を与えることがあります。

定期的に内部の掃除を依頼する

長い間掃除をしないと内部にほこりがたまり、火災や感電の原因となることがあります。1 年に 1 度は、内部の掃除をソニーの相談窓口にご相談ください(有料)。
特に、湿気の多くなる梅雨の前に掃除をすると、より効果的です。

排気口周辺には触れない

排気口周辺は光源用ランプの熱で温度が高くなっています。手などを触れると火傷の原因となります。

光源用ランプについての安全上のご注意

プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。高圧水銀ランプには、次のような特性があります。

・衝撃や、使用時間の経過による劣化などにより大きな音をともなって破裂したり、不点灯となって寿命が尽きることがあります。
・個体差や使用条件によって、寿命に大きなバラツキがあります。指定の時間内であっても破裂、または不点灯状態になることがあります。
・交換時期を越えると、破裂、不点灯やチラつきの発生の可能性が高くなります。
「ランプ／フィルターを交換してください」というメッセージが表示されたときには、光源用ランプが正常に点灯している場合でも速やかに新しい光源用ランプと交換してください。

⚠警告

下記の注意事項を守らないと、破裂・発熱・液漏れにより、**死亡**や**大けが**などの人身事故になることがあります。

光源用ランプ交換は光源用ランプが充分に冷えてから行う

電源を切った直後は光源用ランプが高温になっており、さわるとやけどの原因となることがあります。光源用ランプ交換の際は、電源を切ってから 1 時間以上たって、充分に光源用ランプが冷えてから行ってください。

⚠注意

下記の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

光源用ランプが破裂したときはすぐに交換を依頼する

光源用ランプが破裂した際には、プロジェクター内部やランプハウス内に破片が飛散している可能性があります。 **ソニーの相談窓口に光源用ランプの交換と内部の点検を依頼**してください。また、排気口よりガスや粉じんが出たりすることがあります。
ガスには水銀が含まれていますので、万が一吸い込んだり、目に入ったりした場合は、けがの原因となることがあります。
速やかに医師にご相談ください。

光源用ランプを傾けて持たない

光源用ランプを傾けて持つと、光源用ランプの破損時に光源用ランプの破片が飛び、けがの原因となることがありますので、水平に持ってください。

使用済み光源用ランプを破棄する場合

本機の光源用ランプの中には水銀が含まれています。使用済み光源用ランプは、地域の蛍光管の廃棄ルールに従って廃棄してください。

電池についての安全上のご注意

ここでは、本機での使用が可能なソニー製乾電池についての注意事項を記載しています。

万一、異常が起きたら

・電池の液が目に入ったら

すぐにきれいな水で洗い、ただちに医師の治療を受ける。

・煙が出たら

ソニーの相談窓口に連絡する。

・電池の液が皮膚や衣服に付いたら

すぐにきれいな水で洗い流す。

・バッテリー収納部内で液が漏れたら

よくふき取ってから、新しい電池を入れる。

破裂

高温

下記の注意事項を守らないと、破裂・発熱・液漏れにより、死亡や大けがなどの人身事故になることがあります。

- 乾電池は充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

注意

破裂

下記の注意事項を守らないと、破裂・液漏れにより、けがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

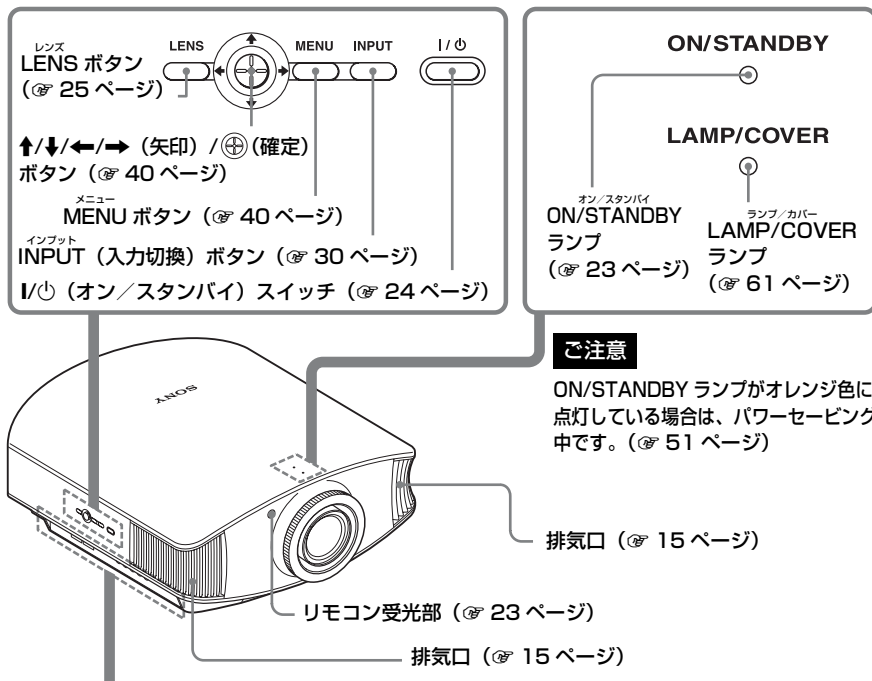
- 投げつけない。
- 使用推奨期限内（乾電池に記載）の乾電池を使用する。
- ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れる。
- 電池を入れたまま長期間放置しない。
- 新しい電池と使用した電池は混ぜて使わない。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。
- 水や海水につけたり濡らしたりしない。

警告

使用済み乾電池は、地域のルールに従って処分してください。

各部の名前

本機前面／右側面

本機のボタンはリモコンの同じ名前のボタンと同じ働きをします。

ご注意

ON/STANDBY ランプがオレンジ色に点灯している場合は、パワーセービング中です。（☞ 51 ページ）

本機後面／底面

SONY
吸気口
（☞ 15 ページ）
リモコン受光部
（☞ 23 ページ）
吸気口
（☞ 15 ページ）
吸気口（☞ 15 ページ）
吸気口（☞ 15 ページ）
吸気口（☞ 15 ページ）
光源用ランプカバー
（☞ 65 ページ）
アジャスター（☞ 27 ページ）
フィルターホルダー
（☞ 66 ページ）
吸気口（☞ 15 ページ）
プロジェクターサスペンション
サポート取り付け穴
（☞ 78 ページ）

リモコン

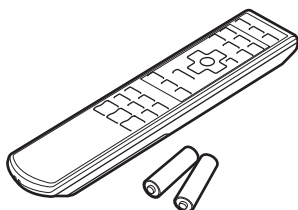
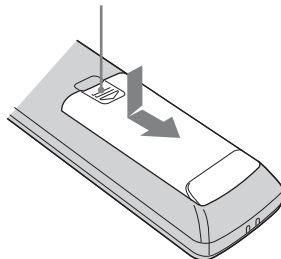
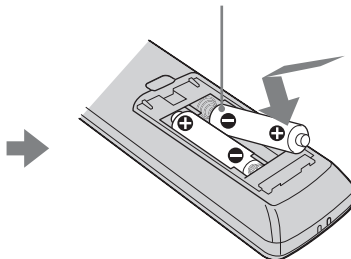
リモコン発光部
LIGHT ボタン
押すとリモコンのボタンが光ります。
INPUT（入力切換）ボタン（☞ 30 ページ）
COLOR SPACE ボタン（☞ 36 ページ）
GAMMA CORRECTION（ガンマ補正）ボタン（☞ 36 ページ）
↑/↓/←/→（矢印）/ ⊕（確定）ボタン（☞ 40 ページ）
MENU ボタン（☞ 40 ページ）
WIDE MODE ボタン（☞ 32 ページ）
PICTURE MODE ボタン（☞ 35 ページ）
SHARPNESS ＋／－ ボタン（☞ 46 ページ）
I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチ（☞ 24 ページ）
COLOR TEMP（色温度）ボタン（☞ 36 ページ）
BLACK LEVEL（黒補正）ボタン（☞ 36 ページ）
LENS ボタン（☞ 25 ページ）
ADVANCED IRIS ボタン（☞ 36 ページ）
RESET ボタン（☞ 40 ページ）
RCP （リアルカラープロセッシング）ボタン（☞ 38 ページ）
ADJ PIC ボタン（☞ 37 ページ）
CONTRAST ＋／－ ボタン（☞ 45 ページ）
BRIGHTNESS（明るさ）＋／－ボタン（☞ 45 ページ）
LIGHT
INPUT
I / ⏻
COLOR SPACE
COLOR TEMP
BLACK LEVEL
GAMMA CORRECTION
ADVANCED IRIS
LENS
RESET
MENU
REAL COLOR PROCESSING
WIDE MODE
RCP
ADJ PIC
PICTURE MODE
DYNAMIC
STANDARD
CINEMA
USER 1
USER 2
USER 3
SHARPNESS
BRIGHTNESS
CONTRAST
SONY
PROJECTOR

接続と準備

この章では、プロジェクターとスクリーンを置く位置を決めたり、プロジェクターで映す機器との接続のしかたなどを説明します。

付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

・リモコン（1 個）と
　単 3 形乾電池（2 個）

・電源コード（1 本）
・ImageDirector3 CD-ROM（1 枚）
・レンズキャップ
　お買い上げ時は本体に取り付けられています。ご使用時は取りはずしてください。
・取扱説明書（本書）
・保証書（1 部）

リモコンに電池を入れるには

リモコンの取り扱いについてのご注意

・落としたり、踏みつけたり、中に液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
・直射日光が当たるところ、暖房機具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

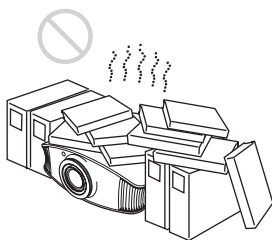
手順 1：本機を設置する

プロジェクターは、ビデオ機器などからの映像をスクリーンに映します。本機はレンズシフトにより、置き場所を広範囲に選べて簡単に美しい映像をご覧いただけます。

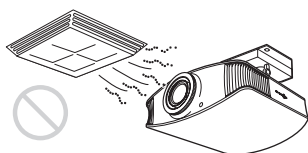
設置の前に

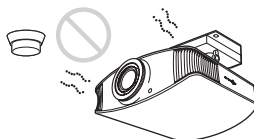
設置に適さない場所

次のような場所には置かないでください。故障や破損の原因となります。

風通しの悪い場所

本機の周囲から 30 cm 以内には物を置かないようにしてください。

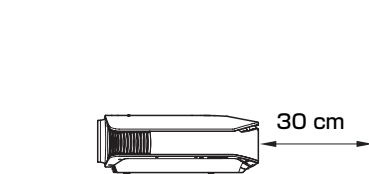
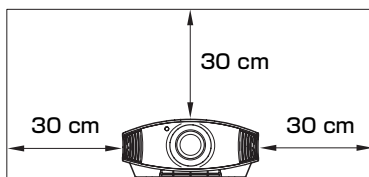
温度や湿度が非常に高い場所

空調の冷暖気が直接当たる場所

結露や異常温度上昇により、故障の原因となることがあります。

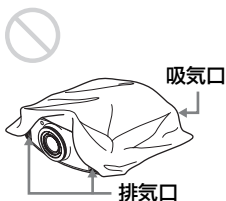
熱感知器や煙感知器のそば

感知器が誤動作する原因となることがあります。

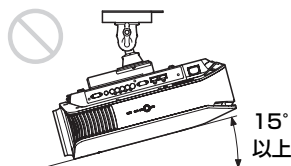
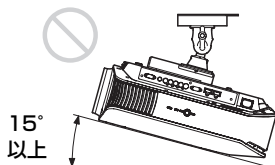
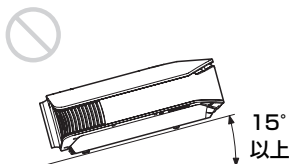
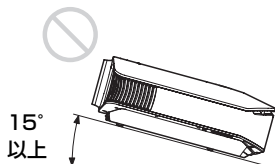
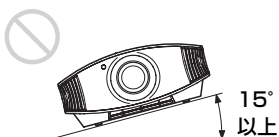
ほこりが多い場所、たばこの煙などが直接入る場所

壁から離して設置

本機の性能信頼性のために、壁から 30 cm 以上離して設置してください。

使用に適さない状態

次のような状態では使用しないでください。

吸排気口を覆う

ちょっと一言
吸排気口の位置について詳しくは、「各部の名前」（☞ 10 ～ 11 ページ）をご覧ください。

本機を前後左右に傾ける

プロジェクターを 15 度以上傾けたり、床置きおよび天井つり以外での設置でお使いになることは避けてください。色むらや光源用ランプの信頼性を著しく損ねる原因となることがあります。

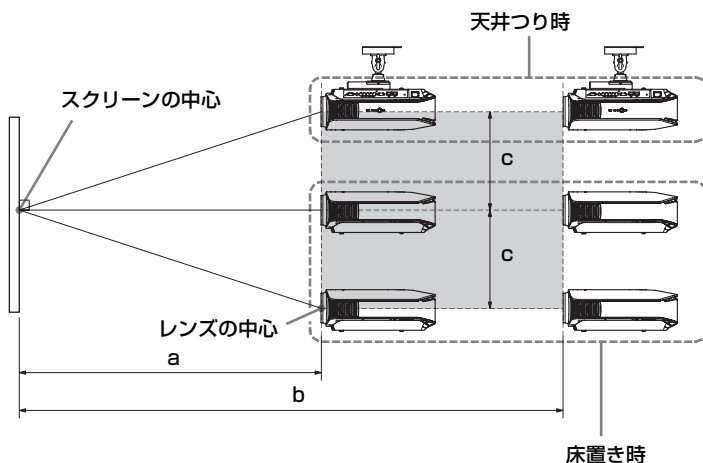
標高の高い場所でご使用になる場合

海抜 1500m 以上の場所でのご使用に際しては、「 初期設定」メニューの「冷却設定」を「強」にしてください（☞ 50 ページ）。そのまま使用すると、部品の信頼性などに影響を与える恐れがあります。

設置位置を決める

お使いになるスクリーンの大きさ（投影サイズ）によって、スクリーンとプロジェクターとの位置関係が変わります。プロジェクターのレンズ中心からスクリーンまでの距離を投射距離といいます。

1 スクリーンとプロジェクターを置く位置を決める。

図の　　　の範囲内にレンズの中心が入るようにプロジェクターを置くと、画質を損なうことなく投影することができます。次ページの表の a、b、c の距離を目安に、スクリーンとプロジェクターを置く位置を決めてください。

a：スクリーンからプロジェクターのレンズ中心までの投射距離（最小）
b：スクリーンからプロジェクターのレンズ中心までの投射距離（最大）
c：上レンズシフトを最大にしたときのスクリーン中心からプロジェクターのレンズ中心までの垂直距離

天井つりで設置する場合は、「天井つり設置」（☞ 78 ページ）をご覧ください。

レンズシフトについて詳しくは「手順 3：画面の位置を調整する」（☞ 23 ページ）をご覧ください。

16:9 スクリーン使用時

単位：mm

投影サイズ（インチ）	40	60	80	100	120	150	180	200	250	300
(mm)	1016	1524	2032	2540	3048	3810	4572	5080	6350	7620
a	1212	1842	2472	3102	3732	4677	5622	6252	7827	9402
b	2105	3181	4257	5333	6409	8023	9637	10713	13403	16093
c	324	485	647	809	971	1213	1456	1618	2022	2426

設置寸法の計算方法（SS：スクリーンサイズ）
a 最小値 =31.5 × SS − 48.2
b 最大値 =53.8 × SS − 46.9
c 値 =8.0876 × SS

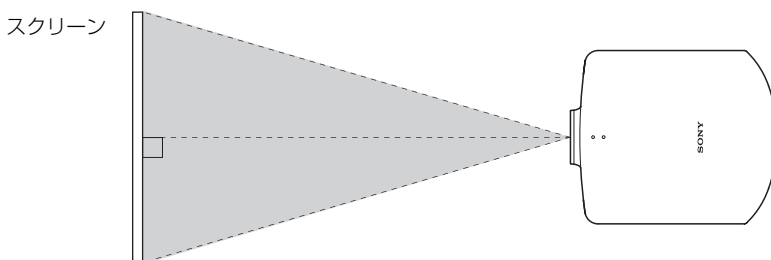
4:3 スクリーン使用時（4：3 映像投影）

単位：mm

投影サイズ（インチ）	40	60	80	100	120	150	180	200	250	300
(mm)	1016	1524	2032	2540	3048	3810	4572	5080	6350	7620
a	1494	2265	3036	3807	4578	5734	6891	7662	9590	11517
b	2587	3904	5220	6537	7854	9829	11805	13122	16414	19706
c	396	594	792	990	1188	1485	1782	1980	2474	2969

設置寸法の計算方法（SS：スクリーンサイズ）
a 最小値 =38.551 × SS − 48.2
b 最大値 =65.842 × SS − 46.9
c 値 =9.8979 × SS

2 レンズがスクリーンに平行になるようにプロジェクターを置く。

上から見た図

3 スクリーンに画像を映して画面の位置を調整する。**（☞ 23 ページ）**

スクリーンに画像を映すには、ビデオ機器などを接続します。（☞ 19 ページ）

ご注意

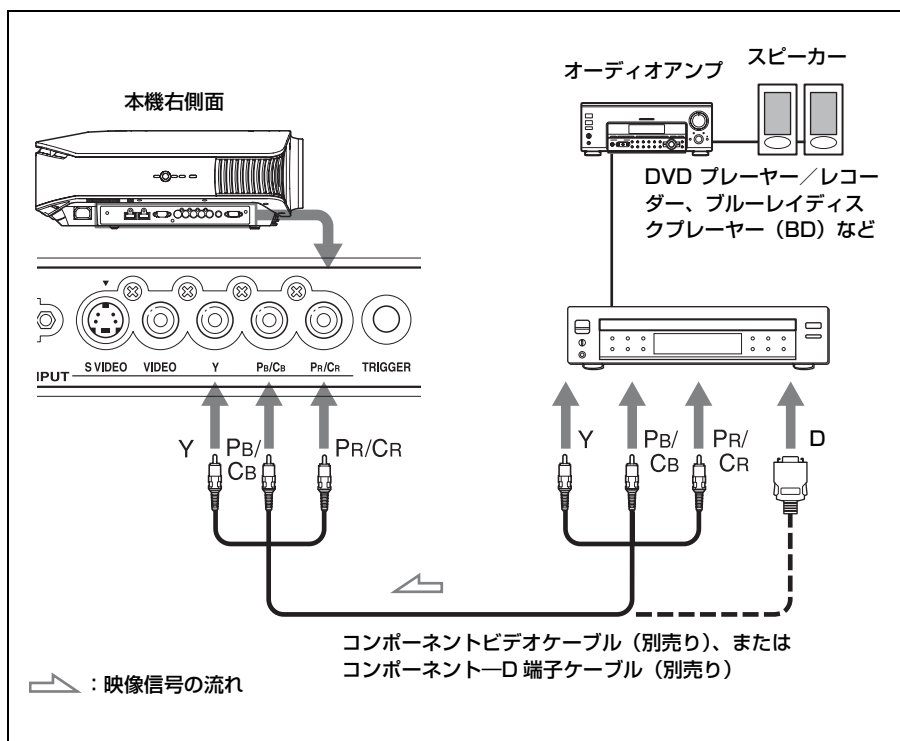
表面に凹凸のあるスクリーンを使用すると、プロジェクターとスクリーン間の距離やズーム倍率によっては、まれに画面上に縞模様が現れることがあります。これはプロジェクターの故障ではありません。

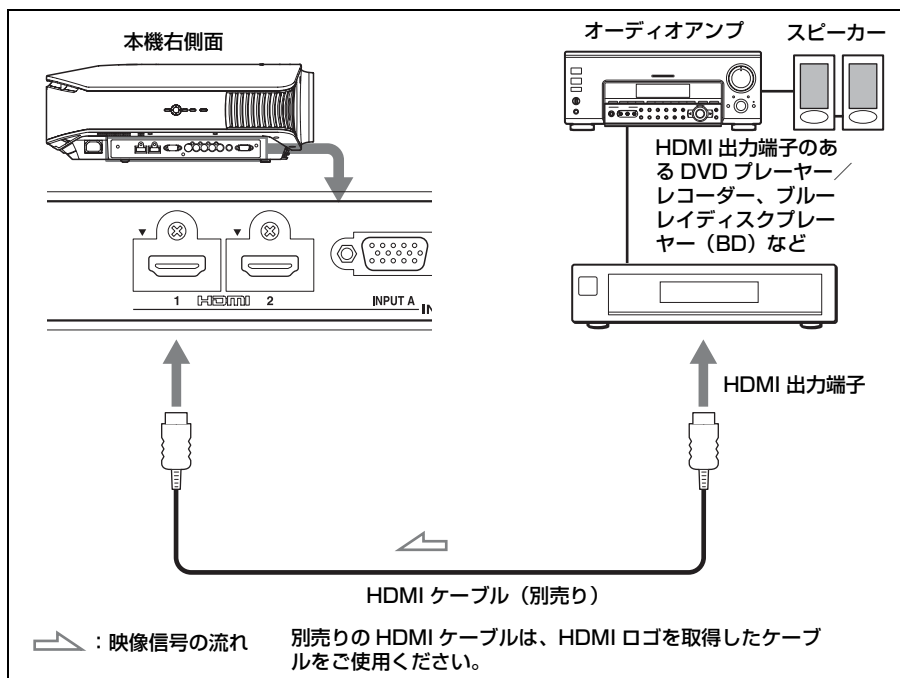
手順 2：機器をつなぐ

接続するときは

・各機器の電源を切った状態で接続してください。
・接続ケーブルは、それぞれの端子の形状に合った正しいものを選んでください。
・プラグはしっかり差し込んでください。不充分な接続は動作不良、画質不良の原因になります。抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
・接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ビデオ機器をつなぐ

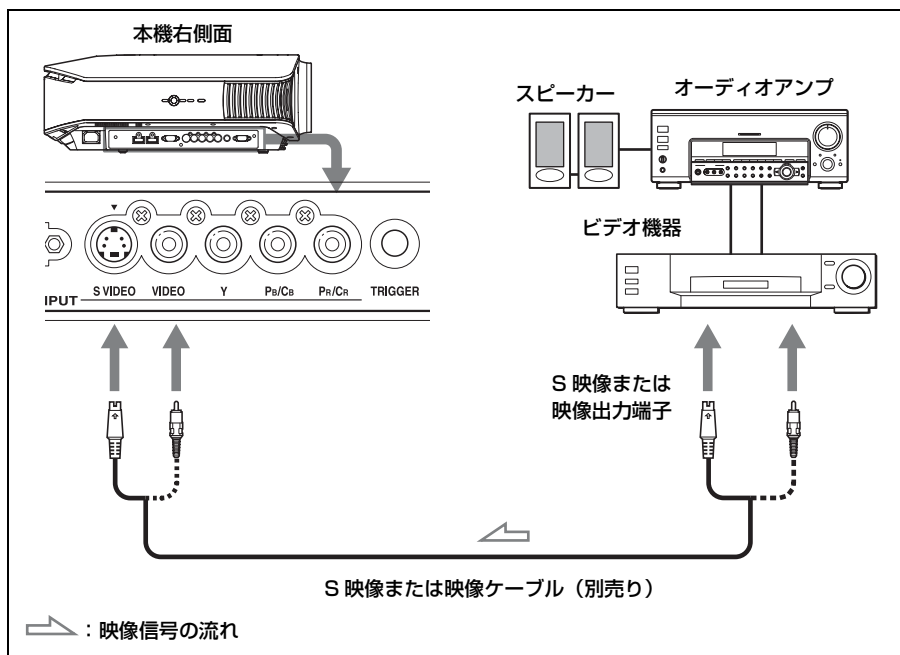
コンポーネントビデオ出力端子、または D 端子のある DVD プレーヤー／レコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー（BD）をつなぐ場合

HDMI 出力端子のある DVD プレーヤー／レコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー（BD）をつなぐ場合

HDMI 出力端子のある DVD プレーヤー／レコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー（BD）などは、本機の HDMI 入力端子につなぐとより高品質の映像をお楽しみいただけます。さらに、HDMI コントロール対応機器であれば、それぞれの機器間で連動した操作ができるようになります。詳しくは「機能設定」メニュー（☞ 52 ページ）および「HDMI コントロールについて」（☞ 58 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機の HDMI 入力端子につなぐ機器は、HDMI ロゴを取得した機器をご使用ください。
- HDMI ケーブルをつなぐ際は、本機端子の上部にある ▼ とケーブル端子部の ▼ が向かい合うように接続してください。
- HDMI ケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らない場合は、つないだ機器の設定を確認してください。

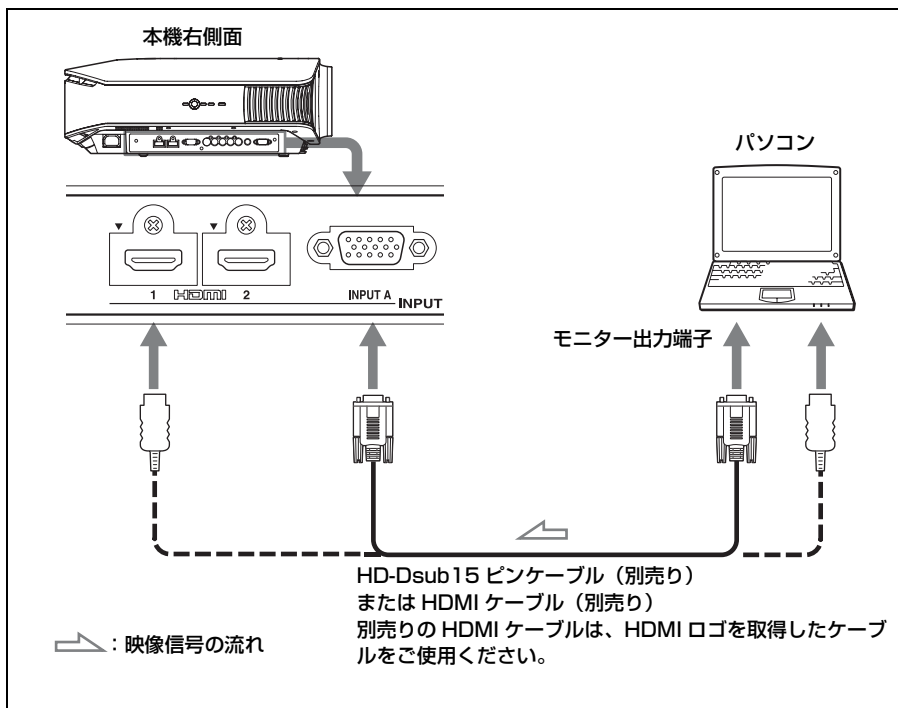
HDMI、HDMI ロゴおよび High Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC 社の商標または登録商標です。
HDMI コントロールは、HDMI で規格化されている HDMI CEC（Consumer Electronics Control）を使った機器間相互制御の機能です。
本機は、HDMI の PC Display 入力に対応しております。また HDCP に対応しております。

S 映像端子または映像端子のあるビデオ機器をつなぐ場合

コンポーネント出力端子のない DVD プレーヤー／レコーダー、ハードディスクレコーダー、ビデオデッキ、またはレーザーディスクプレーヤーなどをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ちょっと一言

よりよい画質でご覧いただくために、S VIDEO INPUT（S 映像）端子につなぐことをおすすめします。

つなぐ機器に S 映像出力端子がない場合は、VIDEO INPUT（映像）端子につないでください。

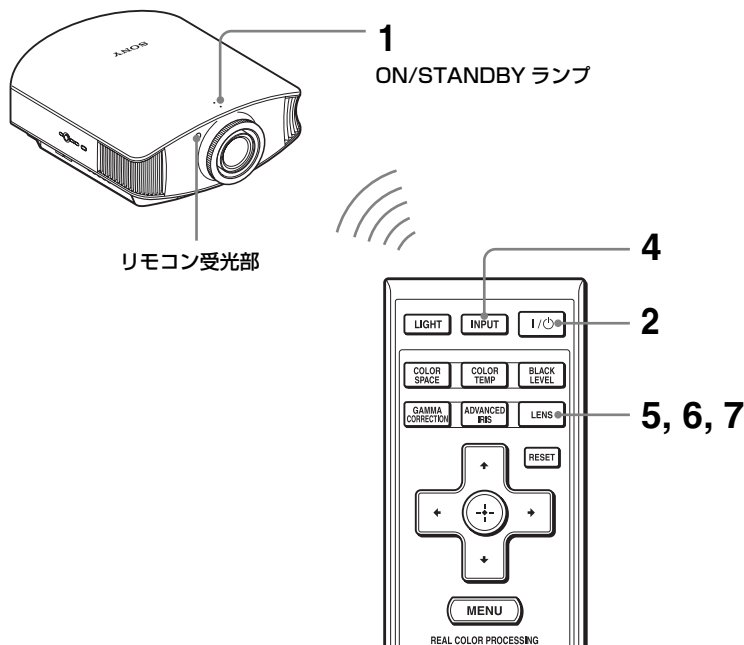
パソコンをつなぐ

ちょっと一言

「 初期設定」メニューの「入力 A 信号種別」で「オート」または「コンピューター」を選んでください。入力信号が正しく表示できない場合は「コンピューター」を選んでください。（☞ 51、62 ページ）

ご注意

・HDMI ケーブルをつなぐ際は、本機端子の上部にある ▼ とケーブル端子部の ▼ が向かい合うように接続してください。
・ノート型のパソコンで、出力信号をパソコンの液晶ディスプレイと外部モニターの両方に出力するように設定すると、本機に正しく映像が出ない場合があります。この場合は、外部モニターのみに信号が出力されるように、パソコンを設定してください。パソコンの設定については、パソコンのメーカーへお問い合わせください。
・HDMI ケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らない場合は、つないだ機器の設定を確認してください。

手順 3：画面の位置を調整する

スクリーンに画像を映して画面の位置を調整します。

ちょっと一言

本体側面の I/⏻（オン／スタンバイ）、INPUT（インプット）、LENS（レンズ）、MENU（メニュー）、↑/↓/←/→/⊕（ジョイスティック）ボタンは、リモコンの同じ名前のボタンと同じ働きをします。

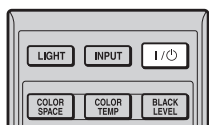
ご注意

設置場所によってはリモコンで操作できないことがまれにあります。その場合は、リモコンをスクリーンに向けて操作してください。

1 電源コードを本機につないでから、電源プラグをコンセントに差し込む。

ON/STANDBY（オン スタンバイ）ランプが赤く点灯し、スタンバイ状態になります。

ON/STANDBY

赤く点灯

数秒点滅し
点灯（緑色）

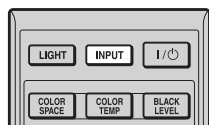
2 **I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを押して電源を入れる。**

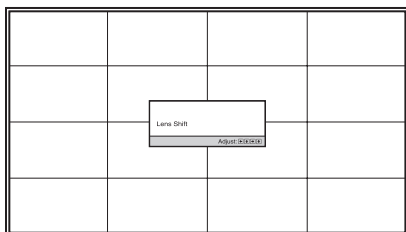
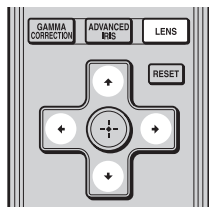
ON/STANDBY ランプが緑色に点滅したあと、点灯します。
点滅中は画面に「Starting...」（起動中です。）と表示されます。

3 **接続した機器の電源を入れる。**

それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

4 **INPUT ボタンを押してスクリーンに映像を映す。**

押すたびに入力信号の画面表示と投影される機器が切り換わります。
（☞ 30 ページ）

ちょっと一言

・メニュー画面の表示言語を選ぶことができます。詳しくは、「手順 4：メニュー画面の言語を選ぶ」（☞ 28 ページ）をご覧ください。
・「 機能設定」メニューの「オート入力サーチ」が「入」に設定されている場合は、INPUT ボタンを押すと自動的に入力信号のある入力端子に切り換わります。
（☞ 52 ページ）

5 画面の垂直位置を調整する。

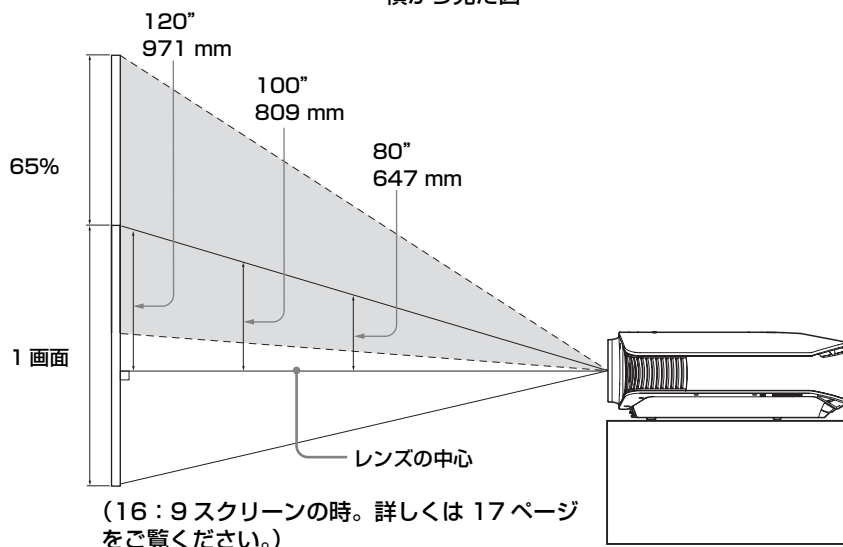
LENS ボタンを繰り返し押してレンズシフト調整画面（パターン画面）を表示し、↑/↓/←/→ ボタンで最適な画面の垂直位置を選択する。
LENS ボタンを押すたびに、レンズ調整画面が順番に表示されます。

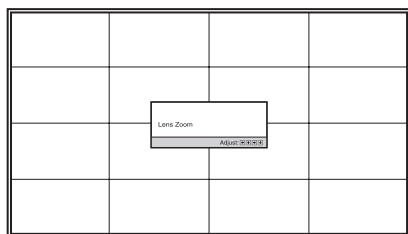
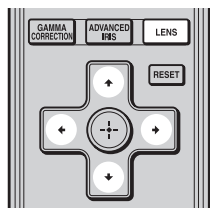
レンズフォーカス → レンズズーム → レンズシフト → (レンズフォーカスに戻る)

↑/→ ボタンを押すと、画面位置は上方向に移動します。
↓/← ボタンを押すと、画面位置は下方向に移動します。

ちょっと一言

「設置設定」メニューの「レンズコントロール」が「切」に設定されている場合は、垂直位置調整ができません。（☞ 54 ページ）
「機能設定」メニューの「テストパターン」が「切」に設定されている場合は、「パターン画面」が表示されません。（☞ 53 ページ）

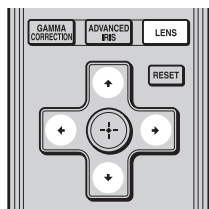
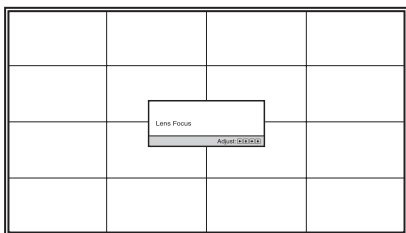
レンズの中心から上方向に 65% 画面投影画面を移動できます。

ちょっと一言

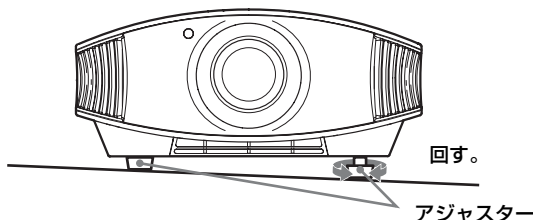
画面の水平位置も微調整できます。
詳しくは「左右の画面位置を微調整する」（☞ 82 ページ）をご覧ください。

6 LENS ボタンを繰り返し押してレンズズーム調整画面（パターン画面）を表示し、↑/↓/←/→ ボタンで画面の大きさを合わせる。

↑/→ ボタンを押すと、画面は大きくなります。

↓/← ボタンを押すと、画面は小さくなります。

ちょっと一言

「 設置設定」メニューの「レンズコントロール」が「切」に設定されている場合は、レンズズーム調整、また次のレンズフォーカス調整ができません。（☞ 54 ページ）
「 機能設定」メニューの「テストパターン」が「切」に設定されている場合は、「パターン画面」が表示されません。（☞ 53 ページ）

7 LENS ボタンを繰り返し押してレンズフォーカス調整画面（パターン画面）を表示し、↑/↓/←/→ボタンで画面のピントを合わせる。

設置面の傾きを調整するには

プロジェクターを置く台などが水平でない場合は、アジャスターを使って調整できます。

ご注意

アジャスターを回しているとき、手を挟まないようご注意ください。

手順 4：メニュー画面の言語を選ぶ

メニュー画面やメッセージなどの表示言語を 16 言語から選ぶことができます。

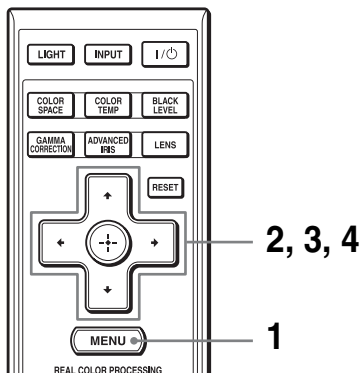
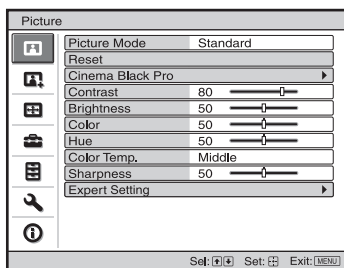
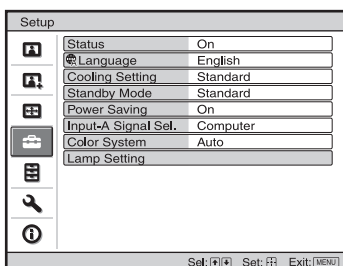
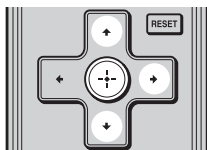
お買い上げ時は英語で表示されるように設定されています。お使いの言語に切り換えるには、メニュー画面で設定し直します。

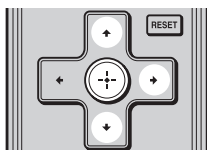
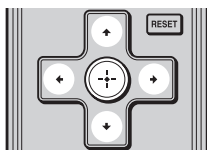
1 MENU ボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

Setup

Status	On
Language	English
Cooling Setting	Standard
Standby Mode	Standard
Power Saving	On
Input-A Signal Sel.	Computer
Color System	Auto
Lamp Setting	

Sel: Set: Exit: MENU

2 ↑/↓ ボタンを押して「 (Setup)」メニューを選び、➡ ボタンまたは ⊕ ボタンを押す。

選んだメニューの設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ ボタンを押して「Language」（表示言語）を選び、➡ ボタンまたは ⊕ ボタンを押す。

4 ↑/↓/←/➡ ボタンで「日本語」を選び、⊕ ボタンを押す。

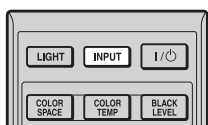
画面表示が日本語になります。

メニュー画面を消すには

MENU ボタンを押します。

見る

この章では、プロジェクターにつないだ DVD プレーヤーなどの映像をスクリーンに映して見るときの操作を説明します。また、お好みに合わせた画質でご覧になる操作も説明しています。

スクリーンに映像を映して見る

例：本機の VIDEO INPUT 端子につないだビデオの画像を見る

1 **本機と、本機に接続した機器の電源を入れる。**

2 **INPUT ボタンを繰り返し押して、スクリーンに映したい機器を選ぶ。**

スクリーンに見たい機器の表示が出るようにします。

画像を見たい機器	選択する画面表示
本機の VIDEO INPUT 端子につないだ機器	ビデオ
本機の S VIDEO INPUT 端子につないだ機器	S ビデオ
Y PB/CB PR/CR 端子につないだ機器	コンポーネント
本機の INPUT A 端子につないだ機器	入力 A*
本機の HDMI 1 端子につないだ機器	HDMI1**
本機の HDMI 2 端子につないだ機器	HDMI2**

* 入力する信号によって「初期設定」メニューで「入力 A 信号種別」を設定してください。「オート」に設定していて信号が正しく表示されない場合は、入力信号に合わせて設定してください。（☞ 51、57 ページ）

** HDMI 接続機器側を、HDMI 規格に準拠した設定にしてください。
HDMI 規格からはずれた信号が入力された場合に、映像の暗い部分や明るい部分の階調がつぶれたり、文字がかすれたりすることがあります。「画質設定」メニューで「明るさ」と「コントラスト」、あるいは「シャープネス」を調整することで改善することがあります。（☞ 45 ページ）

ちょっと一言

- 「 機能設定」メニューの「オート入力サーチ」が「入」に設定されている場合は、INPUT ボタンを押すと自動的に入力信号のある入力端子に切り換わります。
- 「 機能設定」メニューの「HDMI コントロール」が「入」に設定されている場合は、HDMI 1 端子または HDMI 2 端子につないだ機器の操作と連動して、自動的に入力端子に切り換わります。

電源を切る

1 I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを押す。

「パワーオフしますか？」というメッセージが表示されます。

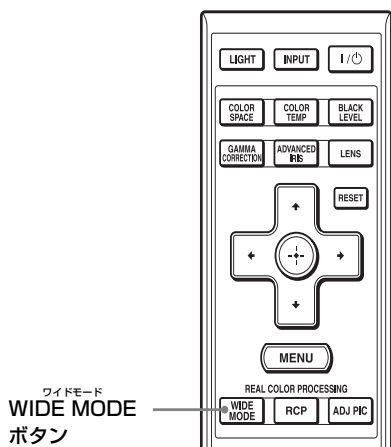
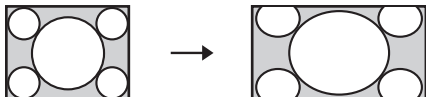
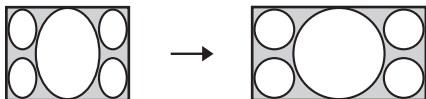
2 メッセージが消える前に I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチをもう一度押す。

ON/STANDBY ランプが緑色に点滅し、本機内部の温度を下げるために、ファンが回り続けます。はじめは早い間隔で点滅します。この間は再び I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを押してもランプは点灯しません。

3 ファンが止まり、ON/STANDBY ランプが赤く点灯するのを確認する。

上記の手順のかわりに I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを約 1 秒押したままにしても電源が切れます。

ワイド画面を楽しむ

お好みの画面モードを選べます。

WIDE MODE ボタンを押す。

押すたびに、「ワイドモード」の設定が順次切り換わります。

メニューでも選べます。（☞ 48 ページ）

「ワイドズーム」

4：3 の映像を違和感少なく画面いっぱいに映します。上下が少し切れます。

「ノーマル」

アスペクト比 4：3 の映像を、画面の中央へ上下いっぱいに映します。

スクイーズ

「フル」

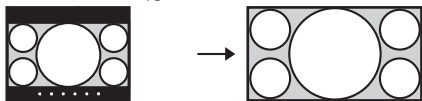
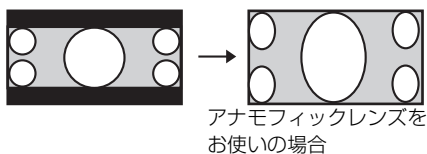
4：3 にスクイーズされた映像を正しいアスペクトで映します。また、4：3 の映像を映した場合は、左右に引き伸ばした状態になります。

ちょっと一言

スクイーズ：オリジナルの映像が縦長に圧縮されて記録されている状態をスクイーズと言います。

レターボックスかつサイドパネル付き

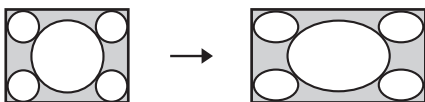
レターボックス付き

「ズーム」

16：9の映像をスクリーンいっぱいになるよう縦横同じ比率で拡大して映します。
レターボックス付きあるいは、レターボックスかつサイドパネル付きの映像などに適しています。
字幕付きの映画などで字幕部分が隠れて見えない場合は、「縦サイズ」および「画面位置上下」で調整し、字幕を表示させます。（☞ 49 ページ）

アナモフィックレンズをお使いの場合

「アナモフィックズーム」

2.35：1の映像を16：9に変換して表示します。16：9の映像を2.35：1に変換して投射する市販のアナモフィックレンズをお使いの場合に最適なモードです。

「フル 1」（PC 信号入力時）

オリジナル映像の縦横比を変えずに画面いっぱいに映します。

「フル 2」（PC 信号入力時）

オリジナル映像を画面いっぱいに映します。

ご注意

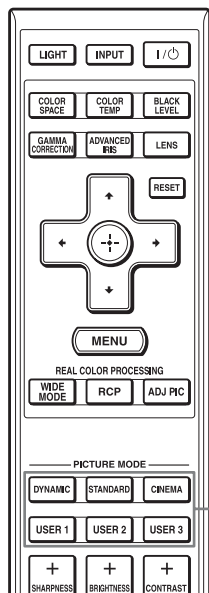
「 スクリーン設定」メニューの「画面位置上下」、「縦サイズ」は、「ワイドモード」で「ズーム」に設定したときのみ調整できます。（☞ 49 ページ）

ワイドモード切換時のご注意

本機はワイドモード切り換え機能があります。ワイドモード切り換え時は以下のことにご注意ください。

・テレビ番組などソフトの映像比率と異なるモードを選択すると、オリジナルの映像と見えかたに差が出ます。この点にご注意してワイドモードを選択してください。
・営利目的、また公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテルなどにおいて、ワイドモード切り換え機能（ワイドズーム）などを利用して、面積の分割表示や圧縮、引き伸ばしなどを行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意ください。

画質を選ぶ

使用する場所や投影する映像の内容に合った画質設定を選べます。

PICTURE MODE ボタン（DYNAMIC、STANDARD、CINEMA または USER1、2、3）を押す。

DYNAMIC（ダイナミック）

明暗のはっきりしたメリハリのある画質になります。

STANDARD（スタンダード）

「DYNAMIC」よりもざらつきを抑えた自然な画質になります。

CINEMA（シネマ）

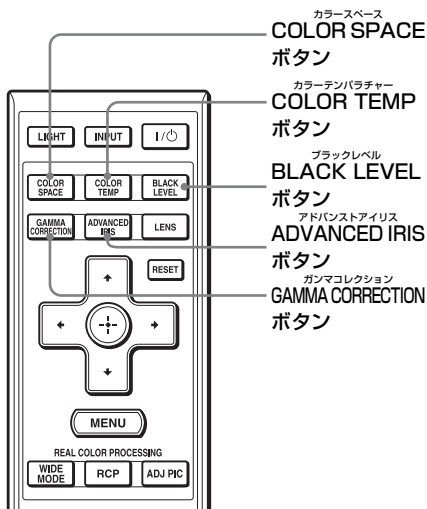
暗い環境で映画などを見るのに適した画質になります。

USER1、2、3（ユーザー 1、2、3）

いずれかのボタンを押し、リモコンのボタンまたはメニュー画面でお好みの画質に調整すると、その設定が記憶されます。（☞ 36、44 ページ）記憶後はボタンを押すだけでお好みの画質でご覧いただけます。

お好みの画質に調整する

リモコンのボタンで、簡単にお好みの画質に調整できます。また、各画質モードのとき、調整した画質を記憶させせることができます。

ダイレクトに項目を選んで調整する

COLOR SPACE、COLOR TEMP、BLACK LEVEL、GAMMA CORRECTION、ADVANCED IRIS ボタンを押す。

COLOR SPACE ボタン

色再現領域を切り換えます。押すたびに「ノーマル」と「ワイド」の間で切り換わります。

COLOR TEMP（色温度）ボタン

押すたびに、色温度の設定が「高」、「中」、「低」、「カスタム１」、「カスタム２」、「カスタム３」の順に切り換わります。

BLACK LEVEL（黒補正）ボタン

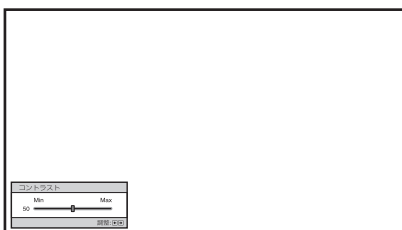
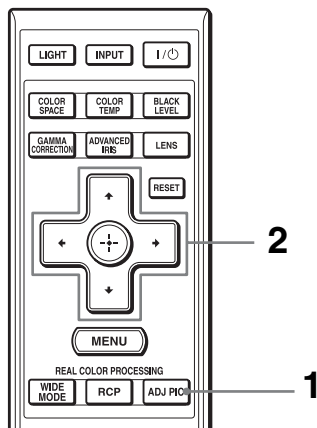
押すたびに、黒補正の設定が「強」、「弱」、「切」の順に切り換わります。

GAMMA CORRECTION（ガンマ補正）ボタン

押すたびに「ガンマ１」、「ガンマ２」、「ガンマ３」、「切」の順に切り換わります。

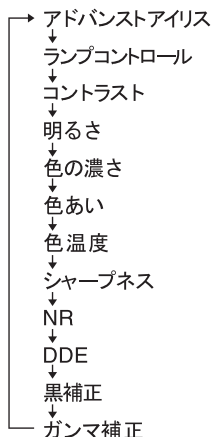
ADVANCED IRIS ボタン

投影時の絞りを切り換えます。
押すたびに「オート１」、「オート２」、「手動」、「切」の順に切り換わります。

順番に項目を選んで調整する

例：コントラストを調整する場合

1 ADJ PIC ボタンを押す。

押すたびに、次の順にそれぞれの画質調整画面が表示されます。

アドバンストアイリス
↓
ランプコントロール
↓
コントラスト
↓
明るさ
↓
色の濃さ
↓
色あい
↓
色温度
↓
シャープネス
↓
NR
↓
DDE
↓
黒補正
↓
ガンマ補正

各項目について詳しくは、「画質設定」メニュー（☞ 44 ページ）をご覧ください。

ご注意

入力する信号の種類によっては画質調整画面が表示されない項目があります。詳しくは、「入力信号と調整・設定項目」（☞ 76 ページ）をご覧ください。

2 **↑/↓/←/→ ボタンで調整や設定をする。**

数値を変更する項目の場合は

→ ボタンを押すと数値が大きくなり、← ボタンを押すと数値が小さくなる。

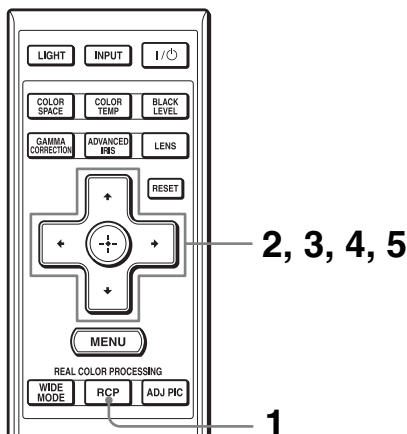
設定を変更する項目の場合は

↑/↓ ボタンを押して設定を選ぶ。

より細かく画質を調整する（リアルカラープロセッシング）

調整したい色を細かく選び、選んだ色ごとにお好みの色合い、色の濃さを調整することができます。よりリアルできめ細かいお好みの画像を映すことができます。

ちょっと一言

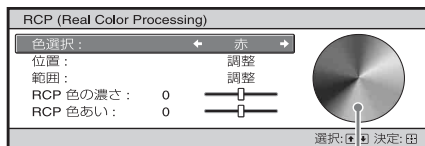
調整したい色のあるシーンで、入力機器の映像を一時停止して調整を行ってください。

補正パレット

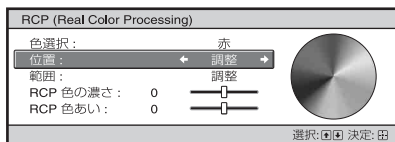
1 **RCP（リアルカラープロセッシング）ボタンを押す。**

2 **↑/↓ ボタンを押して、「ユーザー1」、「ユーザー2」または「ユーザー3」を選び、➡ ボタンを押す。**

RCP 調整画面が画面下に表示されます。

3 **調整したい色を選ぶ。**

下記の ①、② を繰り返して調整したい色を決めます。

① ↑/↓ ボタンで「色選択」を選び、←/→ ボタンで、調整したい色を「赤」、「黄」、「緑」、「シアン」、「青」、「マゼンタ」から選ぶ。
投影画面の中で、選んだ色に対応する部分のみ色が表示され、それ以外は白黒で表示されます。RCP 調整画面の補正パレットにも選んだ色のみ表示されます。

補正パレットを目安に、投影画面の色を見ながら調整する色を選んでください。

② ⬆/⬇ ボタンで「位置」または「範囲」を選び、⬅/➡ ボタンで調整したい色の位置と色の範囲を細かく絞り込む。

4 選択した部分の色を調整する。

⬆/⬇ ボタンで「RCP 色の濃さ」または「RCP 色あい」を選び、投影画面を見ながら ⬅/➡ ボタンでお好みの色になるように調整します。このとき、白黒表示は解除され通常の投影画面になります。

5 調整が終わったら、⊕ ボタンを押す。

RCP 調整画面が消えて手順 2 の画面になり、数秒後に通常の画面に戻ります。

ちょっと一言

位置や範囲調整には制限があります。

付属のソフトウェアを使って画質を調整する（ImageDirector3）

付属 CD-ROM の「ImageDirector3」を使って、本機に接続したパソコンから、ガンマ値をお好みに応じて調整することができます。本機の REMOTE 端子にパソコンをつなぎ、パソコンから「ImageDirector3」を起動します。
「ImageDirector3」の使い方については、CD-ROM 内のヘルプをご覧ください。

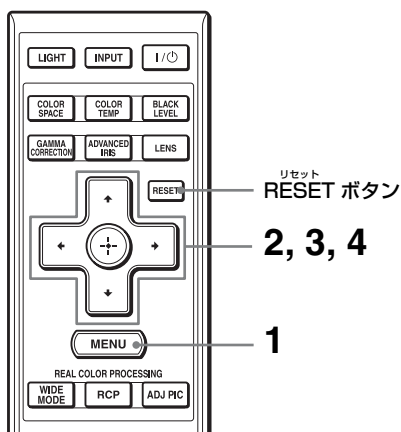
ご注意

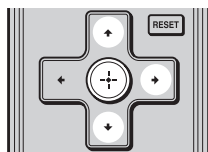
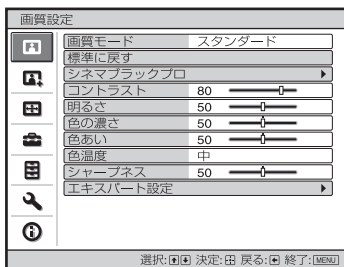
- 「ImageDirector3」をパソコンにあらかじめインストールしておく必要があります。
- REMOTE 端子にパソコンをつなぐときは、パソコンおよび本機の電源を切った状態でつないでください。

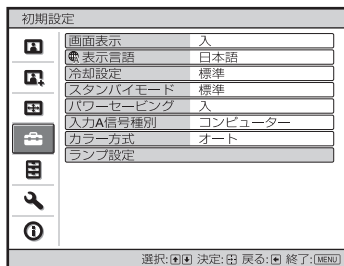
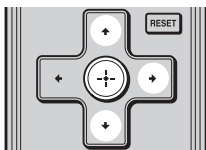
メニュー画面で調整や設定をする

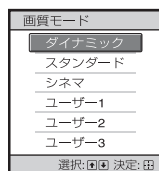
この章では、メニュー画面で画質を細かく調整したり、画面の位置やサイズ、ゆがみを調整するなどの操作を説明しています。

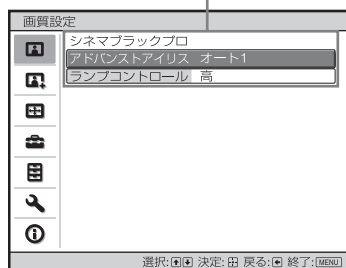
メニュー操作のしかた

本機では、入力信号の設定、初期設定の変更など、各種調整や設定をメニュー画面で行います。選んだ調整／設定項目によって、ポップアップメニューで表示されるもの、メニュー画面を消して設定メニューや調整メニューで表示されるもの、次の階層に表示されるものがあります。項目名の後ろに矢印（▶）が付いた項目を選ぶと、次の階層に設定できる項目が表示されます。表示言語を切り換えるには、「手順４：メニュー画面の言語を選ぶ」（☞ 28 ページ）をご覧ください。

1 **MENU ボタンを押す。**

メニュー画面が表示されます。

2 **↑/↓ボタンを押してメニュー項目を選び、→ または ⊕ ボタンを押す。**

調整／設定できる項目が表示され、現在選ばれている項目が黄色で表示されます。

ポップアップメニュー

設定メニュー

調整メニュー

次の階層に表示された画面

3 ↑/↓ボタンを押して設定したい項目を選び、→ または ⊕ ボタンを押す。

設定できる項目が、ポップアップメニュー、設定メニュー、調整メニューまたは次の階層に表示されます。

4 調整や設定をする。

数値を変更する項目の場合は

数値を大きくしたいときは、↑/→ボタンを押す。⊕ボタンを押すと設定が確定し、元の画面に戻ります。
数値を小さくしたいときは、↓/←ボタンを押す。⊕ボタンを押すと元のメニュー画面に戻ります。

設定を変更する項目の場合は

↑/↓ボタンを押して設定を選ぶ。⊕ボタンを押すと元の画面に戻ります。ただし項目によっては←ボタンでも元の画面に戻ります。

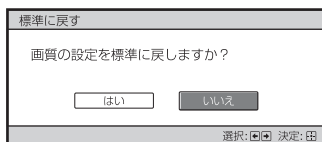
調整できない項目について

入力する信号の種類によって、調整／設定できる項目が異なります。調整／設定できない項目はメニューに表示されません。（☞ 76 ページ）

メニュー画面を消すには

MENU ボタンを押す。

調整した画質をお買い上げ時の値に戻すには

「画質設定」メニューから「標準に戻す」を選択する。

画面表示されたら←ボタンで「はい」を選択して⊕ボタンを押す。

次の全項目の設定値がお買い上げ時の値に戻ります。
「画質設定」メニューの「アドバンストアイリス」、「ランプコントロール」、「コントラスト」、「明るさ」、「色の濃さ」、「色あい」、「色温度」、「シャープネス」および「エキスパート設定」の各項目

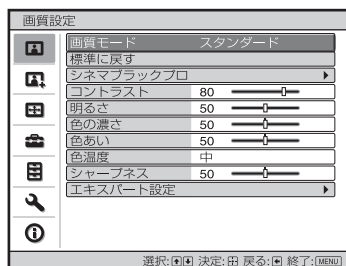
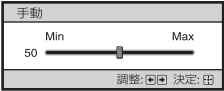
調整、設定した項目をお買い上げ時の値に戻すには

メニュー画面で項目を選び、ポップアップメニュー、設定メニュー、調整メニューを表示する。
リモコンの RESET ボタンを押すと、選択した項目のみお買い上げ時の値に戻ります。

ご注意

リモコンの RESET ボタンは、調整メニューまたは設定メニューが選択されている状態でのみ有効です。

画質設定メニュー

画質を調整するメニューです。

画質モード	**ご覧になる場所や映像の内容に合わせた画質設定を選べる。** **「ダイナミック」：**明暗のはっきりしたメリハリのある画質になる。 **「スタンダード」：**「ダイナミック」より、ざらつきを抑えた自然な画質になる。 **「シネマ」：**暗い環境で映画などを見るのに適した画質になる。 **「ユーザー 1」、「ユーザー 2」、「ユーザー 3」：**好みに合わせた画質を調整、設定し、保存できる。保存したあとはリモコンのPICTURE MODE ボタンを押すと、保存した画質で映像を映すことができる。 **保存のしかた** **1** ユーザー 1、ユーザー 2 またはユーザー 3 を選ぶ。 **2** メニュー画面で調整したい項目を選び、調整する。 **ちょっと一言** ・「ダイナミック」、「スタンダード」、「シネマ」でも画質を調整し、保存することができます。元の値に戻すには、メニューから「標準に戻す」を選択します。 ・入力する信号の種類によっては、画質調整画面が表示されない項目があります。詳しくは、「入力信号と調整･設定項目」（☞ 76 ページ）をご覧ください。

シネマブラック プロ	**アドバンストアイリス** **投影時の絞り機能を切り換える。** **「オート 1」：**投影されるシーンに合わせて最適な絞り値に自動的に切り換わり、最も高いコントラストが得られる。 **「オート 2」：**「オート 1」より絞りの稼動範囲が狭く、コントラストを抑えた画質になる。 **「応答性」：**「オート 1」、「オート 2」を選択した場合には、応答性モードでお好みによって絞りの応答速度を「通常」、「速い」、「遅い」から選択できます。 **「手動」：**絞り値を手動で調整する。 手動 Min Max 50 調整: 決定: **「切」：**通常のコントラストで投影される。
	ランプコントロール **投影時のランプのワット数を切り換える。** **「高」**：通常のワット数で投影される。 **「低」**：ランプのワット数を下げて、黒を引き締める。 **ちょっと一言** 「低」から「高」に切り換えたときはファンの回転数が上がり、音が少し大きくなります。
コントラスト	**映像の明るい方（白レベル）を調整する。** 設定値が大きくなるとコントラストが強くなり、小さくなると弱くなる。 リモコンの CONTRAST+ ／－ボタンで調整できます。
明るさ	**映像の明るさ（輝度）を調整する。** 設定値が大きくなると明るくなり、小さくなると暗くなる。 リモコンの BRIGHTNESS+ ／－ボタンで調整できます。
色の濃さ	**色の濃さを表す彩度を調整する。** 設定値が大きくなると濃くなり、小さくなると薄くなる。
色あい	**色あいを調整する。** 設定値が大きくなると緑がかり、小さくなると赤みがかる。
色温度	**色温度を調整する。** **「高」：**白い部分が青みがかった冷たい色調になる。 **「中」：**「高」と「低」の中間の色調になる。 **「低」：**白い部分が赤みがかった暖かい色調になる。 **「カスタム １ 」、「カスタム ２ 」、「カスタム ３ 」：**好みに合わせた色温度を調整、設定、保存できる。

シャープネス	**映像の輪郭をはっきりさせたり、ノイズを目立たなくさせたりする。** 設定値が大きくなると輪郭がくっきりし、小さくなると柔らかくなりノイズを目立ちにくくできる。 リモコンの SHARPNESS+ ／−ボタンで調整できます。
エキスパート設定	**NR（ノイズリダクション）** **映像のざらつきやノイズを低減する。** 通常は「切」にしておいてください。 ノイズが気になる場合、「弱」、「中」、「強」からソースに応じて選んでください。
	DDE （ダイナミックディテイルエンハンサー） **映像の素材にあわせて、再生する方法を設定する。** **「フィルム」：**通常はこの位置にする。映画ソフトなど 2-3 プルダウン方式の素材を滑らかな動きで再現する。また、2-3 プルダウン方式以外の素材の場合は、自動的に「プログレッシブ」に切り換えて再生する。 **「プログレッシブ」：**インターレースのビデオ信号をプログレッシブに変換して再生する。 **「切」：**インターレースの信号をそのまま変換しないで再生する。
	黒補正 **明暗のはっきりしたメリハリのある画質になる。** 映像ソースに合わせて設定する。 **「強」**：強い黒補正。 **「弱」**：弱い黒補正。 **「切」**：黒補正なし。
	ガンマ補正 **補正映像の階調の応答特性を設定する。** 好みに合わせて 3 通りの階調の中から選択できる。 **「ガンマ 1」：**画面がやや明るくなる。 **「ガンマ 2」：**画面が明るくなる。 **「ガンマ 3」：**画面が暗くなる。 **「切」：**ガンマ補正なし。 付属 CD-ROM の「ImageDirector3」を使うと、好みに応じて階調を調整でき、調整した値はパソコンに保存できます。 「ImageDirector3」の使いかたについて詳しくは、CD-ROM 内のヘルプをご覧ください。

画質詳細設定メニュー

さらに詳細に画質を調整するメニューです。

RCP （リアルカラープロセッシング）	**選択した色ごとに好みの色あいと色の濃さに調整できる。** **「ユーザー 1」、「ユーザー 2」、「ユーザー 3」：** リアルカラープロセッシングを使った調整をし、保存できる。保存したあと、設定した画質で映像を映すことができる。 **「切」：** 調整しない。 詳しい調整のしかたは、「より細かく画質を調整する（リアルカラープロセッシング）」をご覧ください。（☞ 38 ページ）
カラースペース	**色再現領域を切り替える。** **「ノーマル」：** ハイビジョンの色合いにする。 **「ワイド」：** ノーマルより広い色域で自然な色合いに近づける。

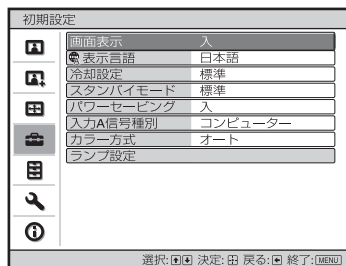
スクリーン設定メニュー

入力信号の設定を変更するメニューです。
画面のサイズやワイド切り換えなどを調整できます。

ワイドモード（動画信号入力時）	**入力信号に対して、どのような縦横比の映像を投影するかを設定する。動画信号入力時（メモリーナンバー 1 ～ 14）（☞ 73 ページ）の場合のみ設定可能。** **「ワイドズーム」**：4:3 の映像を違和感少なく画面いっぱいに映す。上下が少し切れる。 **「ノーマル」**：アスペクト比 4:3 の映像を、画面の中央へ上下いっぱいに映す。 **「フル」**：4:3 にスクイーズされた映像を正しいアスペクトで映す。 **「ズーム」**：16:9 の映像をスクリーンいっぱいになるよう縦横同じ比率で拡大して映す。 **「アナモフィックズーム」**：2.35:1 の映像を 16:9 に変換して表示します。16:9 の映像を 2.35:1 に変換して投射する市販のアナモフィックレンズをお使いの場合に最適なモードです。
ワイドモード（PC 信号入力時）	**入力信号に対して、どのような縦横比の映像を投影するかを設定する。PC 信号入力時のみ設定可能。** **「フル 1」**：オリジナル映像の縦横比を変えずに画面いっぱいに映す。 **「フル 2」**：オリジナル映像を画面いっぱいに映す。 **「ズーム」**：16:9 の映像をスクリーンいっぱいになるように縦横同じ比率で拡大して映す。

オーバースキャン	**映像の周囲を隠す。** **「入」**：入力映像の周囲を隠す。映像の端にノイズなどが見えるような場合にはこちらに設定する。 **「切」**：入力映像を全て表示する。 **ちょっと一言** 画面の上下左右の表示領域を調整するときは「設置設定」メニューの「ブランキング」（☞ 55 ページ）をご覧ください。
スクリーンエリア	**ハイビジョン映像をオーバースキャンした場合の映像の大きさを選択する。** **「フル」**：画面いっぱいに拡大する。 **「スルー」**：画面いっぱいに拡大しない。 **ご注意** ハイビジョン信号入力時（メモリーナンバー 7、8、9、12、13、14）でかつオーバースキャン設定が「入」の場合のみ有効。
画面位置上下	**映像全体を上下に移動させて調整する。** 数値が大きくなると画面が上に動き、小さくなると下に動く。 **ご注意** 「ワイドモード」で「ズーム」に設定したときのみ調整できます。
縦サイズ	**映像を縦方向に拡大もしくは縮小する。** 数値を大きくすると拡大され、小さくすると縮小される。字幕付き映画などに表示されている字幕が見えない場合などに「画像位置上下」と組み合わせて使用する。 **ご注意** 「ワイドモード」で「ズーム」に設定したときのみ調整できます。
入力信号調整	**入力信号を調整する。** **「APA（オートピクセルアライメント）」**：映像信号にあった位置にフェーズ、ピッチ、シフトを自動調整する。 **「フェーズ」**：画素とコンピューター信号の位相を調整する。一番くっきり見える数値にする。 **「ピッチ」**：コンピューター信号入力時、画面の水平方向のサイズを調整する。数値が大きくなるとサイズが大きくなり、小さくなるとサイズが小さくなる。入力信号のドット数と同じ数値にあわせる。 **「シフト」**：画面の位置を調整する。 **「H」（水平）**：数値が大きくなると画面が右に、小さくなると画面が左に移動する。⬅/➡ ボタンを押して設定する。 **「V」（垂直）**：数値が大きくなると画面が上に、小さくなると画面が下に移動する。⬆/⬇ ボタンを押して設定する。

初期設定メニュー

お買い上げ時の設定などを変更するメニューです。

画面表示	**メニュー表示などの情報を投影画面に表示するかを設定する。** 「切」に設定すると、メニューの表示、電源を切るときの確認メッセージ、警告メッセージ以外の画面表示が出なくなる。
表示言語	**メニュー画面の表示言語を選択する。** 「English」（英語）、「Nederlands」（オランダ語）、「Français」（フランス語）、「Italiano」（イタリア語）、「Deutsch」（ドイツ語）、「Español」（スペイン語）、「Português」（ポルトガル語）、「Русский」（ロシア語）、「Svenska」（スエーデン語）、「Norsk」（ノルウェー語）、「日本語」、「中文(简体字)」（中文簡体字）、「中文(繁體字)」（中文繁体字）、「한국어」（韓国語）、「ภาษาไทย」（タイ語）、「عربي」（アラビア語）から選べる。
冷却設定	**高地で使用の場合に設定する。** **「強」**：1500m 以上の高地で使用の場合はこの位置に設定する。 **「標準」**：平地での使用の場合はこの位置に設定する。 **ご注意** 設定を「強」にした場合、ファンの回転数が上がるため、音が少し大きくなります。
スタンバイモード	**スタンバイ時の消費電力を少なくする。** 「標準」に設定すると、通常の消費電力になる。 「低」に設定すると、スタンバイ時の消費電力を少なくすることができる。 **ご注意** 設定を「低」にした場合、HDMI コントロールが動作しません。

パワーセービング（節電モード）	**パワーセービングを設定する。** 「入」に設定し、プロジェクターに信号が入力されない状態が 10 分以上続くと節電モードになり、ON/STANDBY ランプがオレンジ色に点灯し画面が暗くなる。その後、信号が入力されたり、ボタンを押すと解除される。節電モードにしないときは、「切」にする。
入力 A 信号種別	**INPUT A に入力される信号の種類を選択する。** INPUT ボタンで「入力 A」を選んで映す機器からの信号の種類を選ぶ。 **「オート」：**入力されている信号の種類を自動判別して設定する。 **「コンピューター」：**パソコンからの信号を入力するとき。 **「ビデオ GBR」：**ゲーム機、ハイビジョン放送などの信号を入力するとき。 **「コンポーネント」：**DVD プレーヤー／レコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー（BD）、デジタルチューナーなどからのコンポーネント信号を入力するとき。 **ご注意** 「オート」に設定して、入力されている信号が正しく表示されない場合は、入力信号に合わせて設定してください。
カラー方式	**ビデオ入力時のカラー信号方式を選択する。** **「オート」：**NTSC3.58、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-M、PAL-N、PAL60 から自動判別する。 **「NTSC3.58」～「PAL-N」：**強制的に指定されたカラーシステムに設定する。 **ご注意** 通常は「オート」にしておくと、自動的に判別しますが、信号の状態が悪く、画が乱れたり色がつかない場合は、入力信号のカラー方式にあわせて選択してください。
ランプ設定	**光源用ランプ交換をしたときに、設定をする。（☞ 66 ページ）**

機能設定メニュー

本機の機能の設定を変更するメニューです。

HDMI コントロール	**HDMI 1、2 入力に HDMI コントロールに対応した機器をつないでいる時に、HDMI コントロールを有効にするかどうかを選ぶ。** **「HDMI コントロール」**:「入」を選択すると、HDMI コントロールを有効にして以下の設定ができるようになる。 **「PJ → HDMI 機器電源連動」**:「入」を選択すると、本機の電源を切る時に HDMI コントロール機器の電源も連動して切る。 **「HDMI 機器→ PJ 電源連動」**:「入」を選択すると、HDMI コントロール機器の電源を入れたり、再生などの操作をしたりする時に、本機の電源も自動的に入る。 **「HDMI 連動機器一覧」**:HDMI 1、2 入力に接続されている HDMI コントロール機器を一覧表示する。 **ご注意** ・「スタンバイモード」の設定を「低」にした場合、HDMI コントロールが動作しません。 ・つないだ機器を操作するには、つないだ機器が HDMI コントロールに対応していて、HDMI コントロールの設定がされている必要があります。 詳細は「HDMI コントロールについて」(☞ 58 ページ)をご覧ください。
オート入力サーチ	**INPUT ボタンを押したとき、入力信号のある入力端子に自動で切り換える。** 「入」に設定すると、INPUT ボタンが押されたときに、コンポーネント、HDMI 1、HDMI 2、ビデオ、S ビデオ、入力 A の順に入力信号の有無を検出し、入力信号のある入力端子を表示する。 入力信号のない入力端子を選択する場合や、手動で切り換える場合は「切」にする。

テストパターン	**テストパターンを表示する。** 「入」にすると、レンズのフォーカス、ズーム、シフト調整時およびVキーストーン調整時に、テストパターンが表示される。表示したくないときは「切」にする。 **ちょっと一言** テストパターン表示時は、フォーカスが合わせやすいように緑単色の表示となります。
無信号入力時背景	**信号が入力されていないときの画面の色を選択できる。** 「ブラック」または「ブルー」に設定できる。

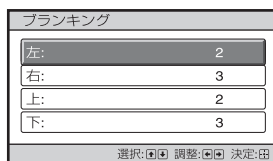
設置設定メニュー

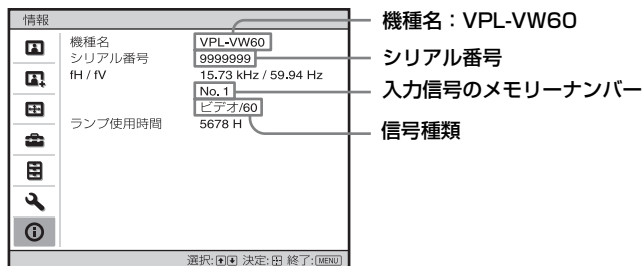
設置設定を変更するメニューです。

V キーストーン	**投影角度によって画像が台形になってしまった場合に補正する。** **画面の上辺より下辺が長い場合（ ）** マイナス方向に数値を設定する。 **画面の下辺より上辺が長い場合（ ）** プラス方向に数値を設定する。 **ご注意** レンズシフト調整の位置によっては、V キーストーン補正を行うとオリジナル画像のアスペクト比（縦横比）が維持できない、または画像に歪みが生じる場合があります。
画像反転	**画像を水平または垂直方向に反転する。** **「切」、「上下左右」、「左右」、「上下」**に変える。天井つり設置やスクリーンの裏面投射設置するときなどに使用する。
レンズ コントロール	**レンズ関連の調整（「レンズフォーカス」、「レンズズーム」、「レンズシフト」）を誤って変更しないようにする。** 「入」に設定するとレンズ関連の調整ができる。レンズ関連の調整を変更したくないときは「切」に設定する。
リモコン受光部	**リモコンの効きが悪いとき、本体前面と後面にあるリモコン受光部を切り替える。** **「前＆後」**：前面と後面のリモコン受光部を両方働かせるとき。 **「前」**：前面のリモコン受光部だけを働かせるとき。 **「後」**：後面のリモコン受光部だけを働かせるとき。

<table>
<tr><td>ブランキング</td><td>画面の上下左右の表示領域を調整する。
ブランキング調整画面で ↑/↓ ボタンでスクリーン端面「左 / 右 / 上 / 下」を選択する。←/→ ボタンでブランキング量を調整する。

ご注意
「ブランキング」と「V キーストーン」を同時に調整すると、「ブランキング」が正しくかかりません。「ブランキング」を使用する際は、「V キーストーン」を 0 にしてください。</td></tr>
<tr><td>パネルアライメント</td><td>文字や映像の色ずれを微調整する。
「入」にすると、「調整色」の指定や「調整パターン色」の指定を行い調整することができる。
「調整色」：色ずれの気になる色を指定する。「G」（緑）を基準に調整するため、「R」（赤）または「B」（青）を選択する。
「調整パターン色」：「調整色」が「R」（赤）の場合は、「R/G」（赤と緑）または「R/G/B」（白、全色）を選択する。
「調整色」が「B」（青）の場合は、「B/G」（青と緑）または「R/G/B」（白、全色）を選択する。
「調整」：シフト調整画面で ←/→ ボタンで水平方向（H）、↑/↓ ボタンで垂直方向（V）の調整量を設定する。←/→、↑/↓ ボタンで調整した方向に「調整色」で選択した色が調整できる。

「リセット」：設定がお買い上げの時の値に戻る。
ご注意
調整値によっては、表示画素数が減る場合があります。また、色付きや解像感に変化が生じる場合があります。
ちょっと一言
調整後に画面端の色付きが気になる場合は、「設置設定」メニューで「ブランキング」の調整を行ってください。（☞ 55 ページ）</td></tr>
</table>

情報メニュー

プロジェクターの機種名、シリアル番号、投影時の画像の水平、垂直周波数やランプ使用時間などの情報を見ることができます。

機種名	機種名（VPL-VW60）を表示する。
シリアル番号	シリアル番号を表示する
fH（水平周波数）	水平周波数を表示する。
fV（垂直周波数）	垂直周波数を表示する。
メモリー No.	入力信号のプリセットメモリーナンバーを表示する。
信号種類	入力信号の解像度を表示する。
ランプ使用時間	ランプの使用時間を累積して表示する。

ご注意

- fH（水平周波数）と fV（垂直周波数）は、お使いの入力信号によっては表示されないことがあります。
- 上記の項目は変更できません。

プリセットメモリーについて

本機では、お買い上げ時に、38 種類の信号に対して最適な画面で映るように映像データがあらかじめ設定されています（プリセットメモリー）。これらの信号を入力したときは、本機が入力信号を自動的に判別し、プリセットメモリー内のデータを呼び出し、最適な画面でスクリーンに映します。「情報」メニューの画面に入力信号のメモリーナンバーと信号種類が表示されます。
プリセットされたデータを「スクリーン設定」メニューでさらに調整できます。
また、アナログコンピューター信号の入力用にプリセットメモリーとは別に、20 個のユーザーメモリーがあり、プリセットされていない入力信号の設定を登録できます。プリセットされていない信号が初めて入力されたときは、メモリーナンバー 0 と表示され、「スクリーン設定」メニューで設定を変更した場合、本機に登録されます。登録数が 20 個を越えると、古いデータから順番に上書きされます。
プリセットされている信号についての情報は、「プリセット信号一覧」にあります。（☞ 73 ページ）

ご注意

アスペクト（縦横比）がスクリーンサイズに合わない場合、画面の一部が黒で表示されます。

その他

ここでは、その他の機能や、本機が正常に動かないときに解決する方法、光源用ランプやエアフィルターの交換のしかたなどについて説明します。

HDMI コントロールについて

HDMI コントロールとは

HDMI コントロールとは、HDMI で規格化されている HDMI CEC（Consumer Electronics Control）を使った機器間相互制御の機能です。HDMI コントロール対応の DVD レコーダー、AV アンプなどを HDMI ケーブルでつなぐと、それぞれの機器間で連動した操作ができるようになります。HDMI コントロール機能を使うには、対象機器それぞれで正しい接続・設定をしてください。

対応機器をつなぐ

HDMI ケーブルでつなぎます。接続には HDMI ロゴを取得したケーブルをご使用ください。

ご注意

HDMI コントロール機能は、ソニー製の HDMI コントロール対応機器間のみで可能です。

HDMI コントロールの設定をする

HDMI コントロールを使うには、本機とつないだ機器側でそれぞれの設定が必要です。本機側の設定については、52 ページをご覧ください。つないだ機器の設定はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI コントロールでできること

・System Standby
つないだ機器の電源を本機と連動して切ることができます。
・One Touch Play
つないだ機器で再生すれば、本機の電源も連動して入り、入力も自動で切り換わります。

ご注意

・つないだ機器を操作するには、つないだ機器がHDMIコントロールに対応していて、HDMI コントロールの設定がされている必要があります。
・つないだ機器によっては、HDMI コントロールが正常に動作しない場合があります。つないだ機器の設定はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう 1 度次の点検をしてください。以下の対処を行っても直らない場合は、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

電源に関する項目

症状	原因と対処
電源が入らない。	→ 約 1 分たってから電源を入れる。 → 光源用ランプカバーをしっかりはめて，ネジをしめる。（☞ 65 ページ） → フィルターホルダーをしっかりはめる。（☞ 66 ページ） → 警告ランプを確認する。（☞ 61 ページ）

映像に関する項目

症状	原因と対処
映像が映らない。	→ ケーブルの接続を確認する。（☞ 19 ページ） → INPUT ボタンで入力を正しく選ぶ。（☞ 30 ページ） → コンピューターの出力信号を外部モニターから出力するように設定する。 → コンピューターの出力信号を外部モニターだけに出力するように設定する。 → 入力信号に合わせて「初期設定」メニューの「入力 A 信号種別」でコンピューター、コンポーネント、ビデオ GBR の設定を正しく合わせる。（☞ 51 ページ）
INPUT A 端子につないだ機器からの映像の色がおかしい。	→ 入力信号に合わせて「初期設定」メニューの「入力 A 信号種別」でコンピューター、コンポーネント、ビデオ GBR の設定を正しく合わせる。（☞ 51 ページ）
VIDEO または S VIDEO 端子につないだ機器からの映像の色がおかしい。	→「画質設定」メニューで画質の調整をする。（☞ 44 ページ） → 入力信号のカラー方式に合わせて、「初期設定」メニューの「カラー方式」を正しく設定する。（☞ 51 ページ）
HDMI 入力時に暗い部分や明るい部分がつぶれる	→ HDMI 規格からはずれた信号が入力された場合に、映像の暗い部分や明るい部分の階調がつぶれることがある。「画質設定」メニューで「明るさ」と「コントラスト」を調整する。（☞ 45 ページ）
画面が暗い。	→「画質設定」メニューで「コントラスト」、「明るさ」を正しく設定する。（☞ 45 ページ）

症状	原因と対処
画面がぼやける。	➔ 画面のフォーカスを合わせる。（☞ 27 ページ） ➔ 結露が生じた。電源を入れたまま約 2 時間放置する。
画面がちらつく。	➔ APA を実行し、入力信号を調整する。 ➔「 スクリーン設定」メニューの「入力信号調整」で「フェーズ」を設定しなおす。（☞ 49 ページ）
文字や映像の色ずれが気になる。	➔「 設置設定」メニューの「パネルアライメント」で調整する。（☞ 55 ページ）

表示に関する項目

症状	原因と対処
画面表示が出ない。	➔「 初期設定」メニューで「画面表示」の設定を「入」にする。（☞ 50 ページ） ➔ ON/STANDBY ランプが緑に点滅していないか確認する。
画面にモデル名が表示され続ける。	➔ お買い上げ時に本機の展示モードが設定されていることがある。お買い上げ店、またはソニーの相談窓口に相談する。

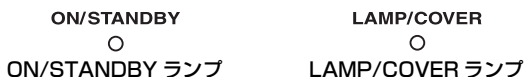
リモコンに関する項目

症状	原因と対処
リモコンが働かない。	➔ 電池が消耗している。新しい電池と交換する。（☞ 13 ページ） ➔ 電池の ⊕ ⊖ を正しく入れる。（☞ 13 ページ） ➔「 設置設定」メニューで「リモコン受光部」の設定を「前＆後」にする。（☞ 54 ページ） ➔ リモコン受光部の近くに蛍光灯があると誤動作することがある。「 設置設定」メニューで「リモコン受光部」の設定を変更する。（☞ 54 ページ）

その他

症状	原因と対処
ファンの音が気になる。	➔「冷却設定」を確認する。（☞ 50 ページ） ➔ 室温が高くないか確認する。 ➔ 本機の設置条件を確認する。（☞ 14 ページ） 部品の信頼性を保つために、常温より室温が高くなるとファンの回転数が上がり、音が大きくなります。常温の目安は 25 ℃ です。
画面に残像が現れる。	➔ 画面の同じ位置にコントラストの強い静止画を長時間表示し続けると、一時的な残像が現れることがある。いったん電源を切り、しばらくすると残像は自然に消える。

警告ランプ

本機では、本体天面の ON/STANDBY ランプと LAMP/COVER ランプの点灯または点滅で不具合をお知らせします。

症状	原因と対処
LAMP/COVER 赤色点滅（2 回点滅パターンの繰り返し）	→ 光源用ランプカバーをしっかりはめて，ネジをしめる。（☞ 65 ページ） → フィルターホルダーをしっかりはめる。（☞ 66 ページ）
LAMP/COVER 赤色点滅（3 回点滅パターンの繰り返し）	→ 光源用ランプの寿命がきた。光源用ランプを交換する。（☞ 64 ページ） → 光源用ランプが高温になっている。光源用ランプが冷えてから、もう一度電源を入れる。
ON/STANDBY 赤色点滅（4 回点滅パターンの繰り返し）	→ ファンが故障している。ソニーの相談窓口に相談する。
ON/STANDBY 赤色点滅（2 回点滅パターンの繰り返し）	→ 本体内部が高温になっている。排気口、吸気口がふさがれていないか、標高が高い場所で使用していないか確認する。
ON/STANDBY 赤色点滅（6 回点滅パターンの繰り返し）	→ I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチを押して電源を入れる。電源が入らない場合は、電源コードを抜いて ON/STANDBY ランプの消灯を確認する。約 10 秒たってから、電源コードを差してもう一度電源を入れる。それでもこの状態が続いたら、電気系統が故障している。ソニーの相談窓口に相談する。

ご注意

上記以外の警告ランプ点滅ならびに上記対応を行っても解決しない場合は、ソニーの相談窓口に相談ください。

メッセージ一覧

警告メッセージ

メッセージ	意味と対処
「セット内部温度が高いです。1 分後にランプオフします。」	➔ 電源を切る。 ➔ 排気口、吸気口をふさいでいないか確認する。（☞ 15 ページ）
「入力信号の周波数が対応範囲をこえています！」	➔ 入力信号の周波数範囲を超えている。対応範囲内の信号を入力する。
「入力 A 信号種別の設定を確認してください。」	➔ パソコンの RGB 信号を入力するときは、「初期設定」メニューの「入力 A 信号種別」を「コンピューター」に設定する。（☞ 51 ページ）
「ランプ／フィルターを交換してください。	➔ 光源用ランプの交換時期がきた。光源用ランプを交換する。（☞ 64 ページ） ➔ 光源用ランプ交換と同時にエアフィルターを交換する。また吸気口の掃除を行う。（☞ 64 ページ）光源用ランプ、エアフィルター交換後も表示される場合は、光源用ランプを交換するときの手順を確認する。（☞ 64 ページ） **ご注意** 画面に表示されるメッセージを消す場合は、リモコンまたはコントロールパネルの任意のボタンを 1 回押してください。
「フィルターを掃除してください。」	➔ エアフィルターを掃除するときがきた。エアフィルターを掃除する。（☞ 67 ページ） **ご注意** 画面に表示されるメッセージを消す場合は、リモコンまたはコントロールパネルの任意のボタンを 1 回押してください。
「フィルターを掃除してください。掃除しましたか？ はい いいえ」	➔ エアフィルターを掃除するときがきた。エアフィルターを掃除する。（☞ 67 ページ） ➔ エアフィルターの掃除が終了している場合、「はい」を選択する。まだ掃除していない場合、「いいえ」を選択する。
「本機内部の温度が高くなっていますので、冷却設定を強に切り替えます。高地でご使用の際は冷却設定は強でお使いください。」	➔ 本機の吸排気口が塞がっていないか確認する。（☞ 15 ページ） ➔ 高地で使用しているときは、冷却設定を「強」にする。（☞ 50 ページ） **ご注意** 機内部温度が下がらないと、1 分後に冷却設定が「強」に切り換わり、ファンの回転数があがります。

注意メッセージ

メッセージ	意味と対処
x⊡	➔ 選択されている入力端子に何も入力されていない。接続を確認する。（☞ 19 ページ）
「無効キーが押されました！」	➔ 正しいボタンで操作する。 ➔ 操作を受け付けないボタンを押した。

光源用ランプとエアフィルターを交換し吸気口を掃除する

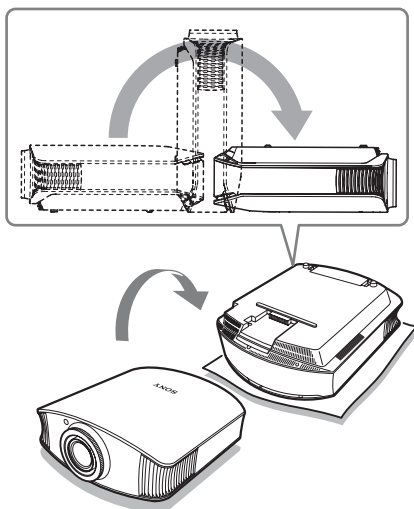
用意するもの：
標準プラスドライバー
布（傷防止）

光源用ランプには寿命があります。画面が暗くなったり色がおかしくなった場合、または画面に「ランプ／フィルターを交換してください。」というメッセージが出たときは、光源用ランプが消耗しています。新しい光源用ランプ（別売り）と交換してください。
交換ランプは、別売りのプロジェクターランプ LMP-H200 をお求めください。
別売りのプロジェクターランプ LMP-H200 には、エアフィルターが付属されています。光源用ランプを交換するときは、エアフィルターも一緒に交換してください。また、吸気口の掃除も行ってください。

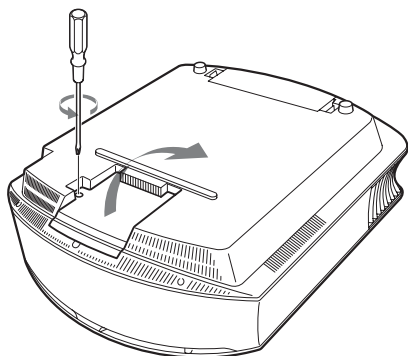
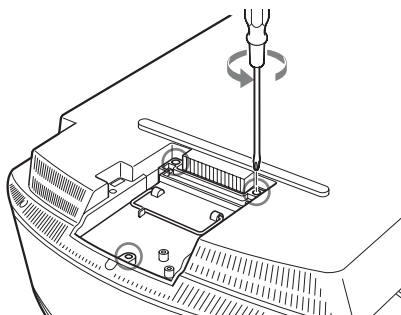
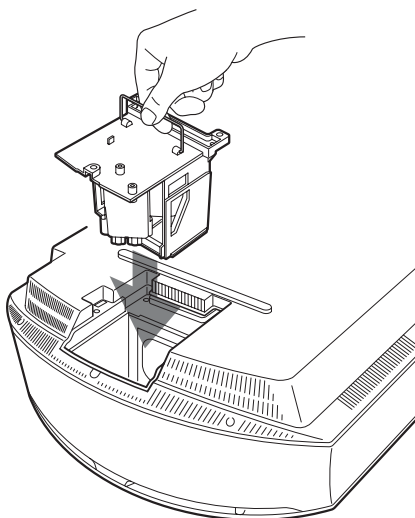
⚠警告

・I/⏻（オン／スタンバイ）スイッチで電源を切った直後は光源用ランプが高温になっており、さわるとやけどの原因となることがあります。光源用ランプを充分に冷やすため、光源用ランプ交換は、プロジェクターの電源を切ってから 1 時間以上たってから行ってください。
・交換ランプのガラス面は触らないでください。もし汚れが付着した場合は乾いた柔かい布でふき取ってください。
・天井つりした状態での光源用ランプ交換は十分注意してください。
・光源用ランプを取り出すときは、光源用ランプを水平に持ち上げ、傾けないでください。光源用ランプを傾けて持つと、万一光源用ランプが破損した場合に、光源用ランプの破片が飛び出し、けがの原因となることがあります。
・エアフィルターを取りはずすとき、本体内部にゴミなどが入らないよう十分ご注意ください。
・エアフィルターの交換は、プロジェクターの性能の維持、また故障を防ぐという意味からたいへん重要です。交換のメッセージが表示された場合は、すみやかにエアフィルターを交換してください。

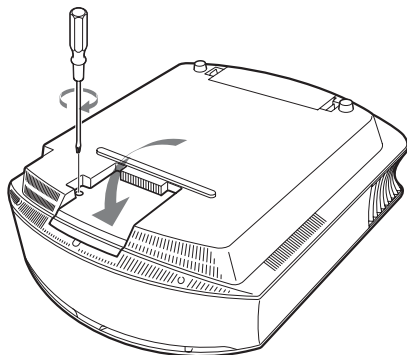
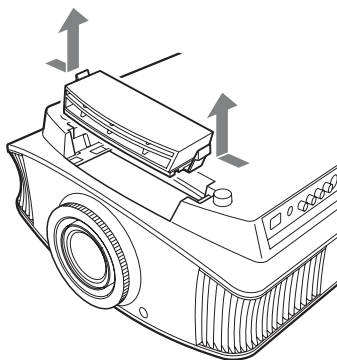
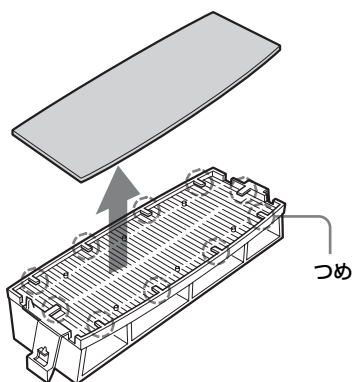
1 プロジェクターの電源を切り、電源コードをコンセントから抜く。

2 床置きの場合はプロジェクターや机などに傷がつかないように布などを敷き、図のようにプロジェクターを反転させて布の上に置く。

ご注意

・光源用ランプが破損している場合は、図のように反転させないと光源用ランプの破片が飛び出し、けがの原因となります。
・プロジェクターは不安定な場所には置かないでください。

3 **光源用ランプカバーを固定しているネジ（1 本）をプラスドライバーでゆるめ、光源用ランプカバーを開ける。**

4 **光源用ランプを固定しているネジ（3 本）をプラスドライバーでゆるめ、取り出し用ハンドルを持って光源用ランプを上に引き出す。**

5 **新しい光源用ランプを奥まで確実に押し込み、3 本のネジを締め、取り出し用ハンドルをロックして元に戻す。**

ご注意

光学ブロックには手をふれないでください。

6 **光源用ランプカバーを閉め、ネジを締める。**

7 フィルターホルダーをはずす。

8 エアフィルターをはずす。

9 新しいエアフィルターをフィルターホルダーのつめ（10ヶ所）にはめる。

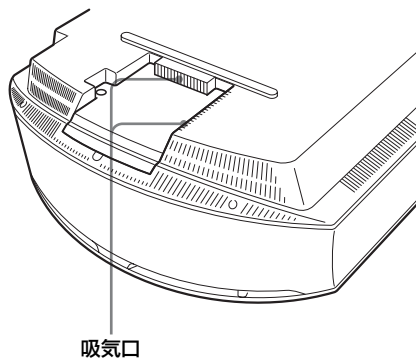
ご注意

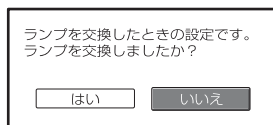
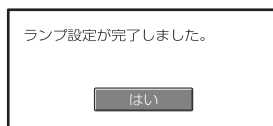
エアフィルターはフィルターホルダーの形状にあわせて取り付けてください。
また、エアフィルターを外した後にセットの奥に付いているファンに手をふれないでください。

10 フィルターホルダーを本機に取り付ける。

ご注意

フィルターホルダーがしっかり取り付けられていないと、電源が入りません。

11 吸気口に付着したほこりをやわらかい布でふきとる。

12 プロジェクターの向きを元に戻す。

13 プロジェクターの電源を入れ、「初期設定」メニューのランプ設定項目を選択すると、以下のようなメニュー画面が表示されます。

14 「はい」を選択します。

⚠警告

光源用ランプをはずしたあとのランプの収納部に金属類や燃えやすい物などの異物を入れないでください。火災や感電の原因となります。また、やけどの危険がありますので手を入れないでください。

ご注意

・新しい光源用ランプは、必ず交換用ランプ LMP-H200 をお使いください。それ以外のものをお使いになると、故障の原因になります。
・光源用ランプを交換する前に必ずプロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ON/STANDBY ランプの消灯を確認してください。
・光源用ランプが確実に装着されていないと、電源が入りません。
・光源用ランプカバーがしっかり閉まっていないと、電源が入りません。
・画面に表示されるメッセージを消す場合は、リモコンまたはコントロールパネルのいずれかのボタンを押してください。

お願い

本機の光源用ランプの中には水銀が含まれています。使用済みの光源用ランプは、地域の蛍光管の廃棄のルールに従って廃棄してください。

エアフィルターを掃除する

画面に「フィルターを掃除してください」というメッセージが表示されたら、エアフィルターのクリーニングが必要です。

約 1500 時間ごとにエアフィルターのクリーニングが必要です。1500 時間は目安です。使用環境や使い方によって異なります。

エアフィルターは中性洗剤を薄めた水で洗ってから日陰で乾かしてください。

ご注意

・エアフィルターを洗うときは、エアフィルターが破損しないようにしてください。
エアフィルターの取りはずしと取り付け方法は、「光源用ランプとエアフィルターを交換し吸気口を掃除する」手順 7 ～ 10（☞ 66 ページ）をご覧ください。
・エアフィルターを取りはずすとき、本体内部にゴミなどが入らないよう十分ご注意ください。
・エアフィルターの掃除は、プロジェクターの性能の維持、また故障を防ぐという意味からたいへん重要です。掃除のメッセージが表示された場合は，すみやかにエアフィルターを掃除してください。

本機のお手入れと画面について

レンズ面のお手入れについて

レンズの表面は反射を抑えるため、特殊な表面処理を施してあります。誤ったお手入れをした場合、性能を損なうことがありますので、以下のことをお守りください。

・レンズ表面についた汚れは、クリーニングクロスや、メガネ拭きなどの柔らかい布で軽く拭いてください。
・汚れがひどいときは、クリーニングクロスやメガネ拭きなどの柔らかい布に水を少し含ませて、拭きとってください。
・アルコールやベンジン、シンナー、酸性洗浄液、アルカリ性洗浄液、研磨剤入り洗浄剤、化学ぞうきんなどはレンズ表面を傷めますので、絶対に使用しないでください。

外装のお手入れについて

・外装の汚れを拭きとるときは、乾いた柔らかい布で拭きとってください。外装の汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布で拭きとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
・アルコールやベンジン、シンナーなどは使わないでください。表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあります。
・布にゴミが付着したまま強く拭いた場合、傷が付くことがあります。
・殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

輝点・滅点について

プロジェクターは非常に精密度の高い技術で作られていますが、画面上に黒い点が現われたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。
また、すじ状の色むらや明るさのむらが見える場合もあります。これらは、プロジェクターの構造によるもので、故障ではありません。

保証書とアフターサービス

保証書

・この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
・所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
・保証期間は、お買い上げ日より１年間です。
・光源用ランプの保証期間は、お買い上げ日より90日間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口にご相談ください。（裏表紙）

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、本機には消耗部品が含まれております。保証期間中でも、長時間使用による消耗部品の交換は有料になる場合があります。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では本取扱説明書に記載しているすべての製品と部品（製品補修用性能部品を含む）を、製造打ち切り後８年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーの相談窓口にご相談ください。（裏表紙）
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

製品：VPL-VW60
製造番号：本体側面または保証書に記載されています。
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店

その他

主な仕様

システム

投影方式　SXRD パネル、1 レンズ、3 原色液晶シャッター投射方式

LCD パネル　0.61 インチ（15.4 mm）
SXRD パネル、6,220,800 画素（2,073,600 × 3）

レンズ　1.8 倍ズームレンズ（電動）
f18.7 ～ 33.7 mm/F2.54 ～ 3.53

光源用ランプ
200W 高圧水銀ランプ

スクリーンサイズ
40 ～ 300 インチ
（1,016 mm ～ 7,620 mm）

カラーシステム
NTSC3.58、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-M、PAL-N、PAL60 自動切り換え／手動切り換え（PAL60 は自動切り換えのみ）

対応ビデオ信号
15 kHz RGB ／コンポーネント　50/60 Hz、
プログレッシブコンポーネント　50/60 Hz、
DTV（480/60i、576/50i、480/60p、576/50p、720/60p、720/50p、1080/60i、1080/50i、1080/48i）、1080/60p（HDMI 入力端子のみ）、1080/50 p （HDMI 入力端子のみ）、1080/24p（HDMI 入力端子のみ）、コンポジットビデオ、Y/C ビデオ

対応コンピューター信号
fH：19 ～ 72 kHz
fV：48 ～ 92 Hz
最高解像度 1920 × 1080 （HDMI 入力端子のみ）
詳細は、プリセット信号一覧をご覧ください。
（☞ 73 ページ）

入力

S VIDEO/VIDEO
（S ビデオ／ビデオ入力）
映像：ピンジャック
コンポジットビデオ 1 Vp-p ± 2 dB、同期負、75Ω 終端
S 映像：Y/C、ミニ DIN4 ピン
Y（輝度）信号：1 Vp-p ± 2 dB、同期負、75Ω 終端
C（クロマ）信号：（バースト信号）0.286 Vp-p ± 2 dB（NTSC）、75Ω または 0.3 Vp-p ± 2 dB（PAL）、75Ω 終端

Y PB/CB PR/CR
コンポーネント ピンジャック
同期付 Y：1 Vp-p ± 2 dB、同期負、75Ω 終端
PB/CB：0.7 Vp-p ± 2 dB 75Ω 終端
PR/CR：0.7 Vp-p ± 2 dB 75Ω 終端

HDMI　デジタル RGB/Y C_B（P_B）C_R（P_R）

INPUT A　HD D-sub 15 ピン
アナログ RGB ／コンポーネント：
R/C_R（P_R）：0.7 Vp-p ± 2 dB、75Ω 終端
G：0.7 Vp-p ± 2 dB、75Ω 終端
同期付 G/Y：1 Vp-p ± 2 dB、同期負、75Ω 終端
B/C_B（P_B）：0.7 Vp-p ± 2 dB、75Ω 終端
SYNC/HD：複合同期入力：TTL レベル、正負極性
水平同期入力：TTL レベル、正負極性
VD：垂直同期入力：TTL レベル、正負極性

TRIGGER　ミニジャック
電源オン時：DC12 V、出力インピーダンス 4.7 kΩ
電源オフ時：0 V

REMOTE　RS-232C:D-sub9 ピン（凹）

一般

外形寸法　395 × 173.5 × 471.4 mm（幅／高さ／奥行き）

質量　約 11 kg

電源　AC100 V、3.0 A、50/60 Hz

消費電力　最大 300W
スタンバイモード：8 W
スタンバイモード（低）：0.5 W

動作温度　＋ 5 ℃～＋ 35 ℃

動作湿度　35%～ 85%（結露しないこと）

保存温度　－ 20 ℃～＋ 60 ℃

保存湿度　10%～ 90%

付属品　リモートコマンダー RM-PJVW60（1）
単 3 形乾電池（2）
電源コード（1）
レンズキャップ（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ImageDirector3 CD-ROM（1）

本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性―第 3-2 部：限度値―高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

別売りアクセサリー

プロジェクターランプ LMP-H200（交換用）
プロジェクターサスペンションサポート PSS-H10

電源接続時のご注意

以下を満足した電源コードをお使いください。

プラグ型名	YP-359
コネクタ型名	YC-13
コード型名	VCTF
定格電圧・電流	12 A/125 V
安全規格	電安法

プリセット信号一覧

下記は、本機で投影可能な信号の種類・フォーマットの一覧表です。

これ以外の信号に対しては、正しい投影ができなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メモリーナンバー	プリセット信号（解像度）		fH（kHz）	fV（Hz）	同期	Hサイズ
1	ビデオ /60	ビデオ 60 Hz	15.734	59.940	–	–
2	ビデオ /50	ビデオ 50 Hz	15.625	50.000	–	–
3	480/60i	DTV 480/60i（720 × 480i）	15.734	59.940	SonG/Y またはコンポジットシンク	–
4	576/50i	DTV 576/50i（720 × 576i）	15.625	50.000	SonG/Y またはコンポジットシンク／コンポジットビデオ	–
5	480/60p	480/60p（720 × 480p）（倍速 NTSC）	31.470	60.000	SonG/Y	–
6	576/50p	576/50p（720 × 576p）（倍速 PAL）	31.250	50.000	SonG/Y	–
7	1080/60i	1035/60i（1920 × 1035i）、1080/60i（1920 × 1080i）	33.750	60.000	SonG/Y	–
8	1080/50i	1080/50i（1920 × 1080i）	28.130	50.000	SonG/Y	–
9	1080/24PsF	1080/48i（1920 × 1080i）	27.000	48.000	SonG/Y	–
10	720/60p	720/60p（1280 × 720p）	45.000	60.000	SonG/Y	–
11	720/50p	720/50p（1280 × 720p）	37.500	50.000	SonG/Y	–
12	1080/60p	1080/60p（1920 × 1080p）	67.500	60.000	–	–
13	1080/50p	1080/50p（1920 × 1080p）	56.260	50.000	–	–
14	1080/24p	1080/24p（1920 × 1080p）	26.973	23.976	–	–
21	640 × 350	VGA-1（VGA 350）	31.469	70.086	H- 正 V- 負	800
22		VESA 85（VGA 350）	37.861	85.080	H- 正 V- 負	832

メモリーナンバー	プリセット信号（解像度）		fH（kHz）	fV（Hz）	同期	Hサイズ
23	640 × 400	NEC PC98	24.823	56.416	H- 負 V- 負	848
24		VGA-2（TEXT）/ VESA 70	31.469	70.086	H- 負 V- 正	800
25		VESA 85（VGA 400）	37.861	85.080	H- 負 V- 正	832
26	640 × 480	VESA 60	31.469	59.940	H- 負 V- 負	800
27		Mac 13	35.000	66.667	H- 負 V- 負	864
28		VESA 72	37.861	72.809	H- 負 V- 負	832
29		VESA 75（IBM M3）	37.500	75.000	H- 負 V- 負	840
30		VESA 85（IBM M4）	43.269	85.008	H- 負 V- 負	832
31	800 × 600	VESA 56	35.156	56.250	H- 正 V- 正	1024
32		VESA 60	37.879	60.317	H- 正 V- 正	1056
33		VESA 72	48.077	72.188	H- 正 V- 正	1040
34		VESA 75（IBM M5）	46.875	75.000	H- 正 V- 正	1056
35		VESA 85	53.674	85.061	H- 正 V- 正	1048
36	832 × 624	Mac 16	49.724	74.550	H- 負 V- 負	1152
37	1024 × 768	VESA 60	48.363	60.004	H- 負 V- 負	1344
38		VESA 70	56.476	70.069	H- 負 V- 負	1328
39		VESA 75	60.023	75.029	H- 正 V- 正	1312
45	1280 × 960	VESA 60	60.000	60.000	H- 正 V- 正	1800
47	1280 × 1024	VESA 60	63.974	60.013	H- 正 V- 正	1696
50	1400 × 1050	SXGA ＋	65.317	59.978	H- 負 V- 正	1864
55	1280 × 768	1280 × 768/60	47.776	59.870	H- 負 V- 正	1664
56	1280 × 720	1280 × 720/60	44.772	59.855	H- 負 V- 正	1664

入力信号種別ごとの対応プリセットメモリーナンバーについて

アナログ信号

信号	プリセットメモリーナンバー
ビデオ信号（VIDEO, S VIDEO 端子）	1 ～ 2
コンポーネント信号（INPUT A, Y P_B/C_B P_R/C_R 端子）	3 ～ 11
ビデオ GBR 信号（INPUT A 端子）	3 ～ 11
コンピューター信号（INPUT A 端子）	21 ～ 39、55 ～ 56

デジタル信号

信号	プリセットメモリーナンバー
コンポーネント信号（HDMI 1、2 端子）	3 ～ 8、10 ～ 14
ビデオ GBR 信号（HDMI 1、2 端子）	3 ～ 8、10 ～ 14
コンピューター信号（HDMI 1、2 端子）	10 ～ 13*、26、32、36、37、45、47、50、55

* デジタル入力のコンピューター信号の中には、DTV 信号（コンポーネント信号あるいはビデオ GBR 信号）のプリセットメモリーナンバーとして表示される入力信号があります。

入力信号と調整・設定項目

メニューによっては、入力信号の種類によって調整／設定できる項目が異なります。詳しくは下の表をご覧ください。調整／設定できない項目はメニューに表示されません。

項目	入力信号			
	ビデオ信号	コンポーネント信号	ビデオ GBR 信号	コンピューター信号
アドバンストアイリス	○	○	○	○
ランプコントロール	○	○	○	○
コントラスト	○	○	○	○
明るさ	○	○	○	○
色の濃さ	○（白黒を除く）	○	○	×
色合い	○（NTSC3.58/NTSC4.43 のみ、白黒を除く）	○	○	×
色温度	○	○	○	○
シャープネス	○	○	○	×
NR	○	○（プリセットメモリナンバー3、4、7、8、9 のみ）	○（プリセットメモリナンバー3、4、7、8、9 のみ）	×
DDE	○	○（プリセットメモリナンバー3、4、7、8、9 のみ）	○（プリセットメモリナンバー3、4、7、8、9 のみ）	×
黒補正	○	○	○	×
ガンマ補正	○	○	○	○
RCP	○	○	○	○
カラースペース	○	○	○	○

○：調整／設定できる項目　　×：調整／設定できない項目

スクリーン設定メニュー

項目	入力信号			
	ビデオ信号	コンポーネント信号	ビデオ GBR 信号	コンピューター信号
ワイドモード	○	○	○	○ *[2]
オーバースキャン	×	○	○	×
スクリーンエリア *[1]	×	○（プリセットメモリーナンバー7、8、9、12、13、14のみ）	○（プリセットメモリーナンバー7、8、9、12、13、14のみ）	×
画面位置上下 *[3]	○	○	○	○
縦サイズ *[3]	○	○	○	×
APA	×	×	×	○ *[4]
フェーズ	×	×	×	○ *[4]
ピッチ	×	×	×	○ *[4]
シフト	×	○	○	○

○： 調整／設定できる項目　×： 調整／設定できない項目

*[1]：「スクリーン設定」メニューの「オーバースキャン」が「入」の場合のみ設定できます。

*[2]：コンピューターの入力信号の場合、アスペクト比が 16:9 のときおよび 16:9 よりも横長のときは設定できません。

*[3]：「ワイドモード」で「ズーム」を選択したときのみ設定できます。

*[4]：アナログ信号の場合のみ設定できます。

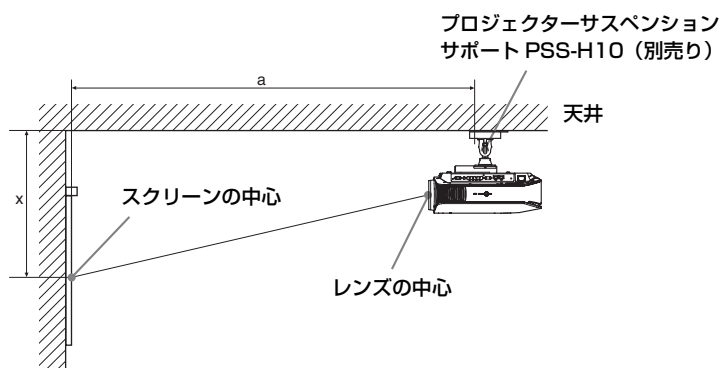
ご注意

HDMI などのケーブルを接続した際、「情報メニュー」（☞ 56 ページ）およびデジタル信号（☞ 75 ページ）にて信号種類を確認して、調整 / 設定できる項目を確認してください。

天井つり設置

本機を天井へ取り付けてご使用の場合は、プロジェクターサスペンションサポート PSS-H10 をご使用ください。投射距離は以下の通りです。

PSS-H10 使用時

a: スクリーンから天井用マウントブラケットの取り付け穴（前面）までの距離
x: 映像が切れない状態での天井からスクリーンの中心までの距離

16:9 スクリーン使用時

単位：mm

投影サイズ（インチ）		40	60	80	100	120	150	180	200	250	300
(mm)		1016	1524	2032	2540	3048	3810	4572	5080	6350	7620
a	最小	1403	2033	2663	3293	3923	4868	5813	6443	8018	9593
	最大	2296	3372	4448	5524	6600	8214	9828	10904	13594	16284
x	最小	249	374	498	623	747	934	1121	1245	1557	1868
	最大	592	754	916	1077	1239	1482	1724	1886	2290	2695

設置寸法の計算方法（SS：スクリーンサイズ）
a 最小値 =31.5 × SS + 143.1
a 最大値 =53.8 × SS + 144.4
x 最小値 =6.2263 × SS
x 最大値 =8.0876 × SS + 268.5

4:3 スクリーン使用時

単位：mm

投影サイズ（インチ）		40	60	80	100	120	150	180	200	250	300
(mm)		1016	1524	2032	2540	3048	3810	4572	5080	6350	7620
a	最小	1685	2456	3227	3998	4769	5926	7082	7853	9781	11708
	最大	2778	4095	5412	6729	8045	10021	11996	13313	16605	19897
x	最小	305	457	610	762	914	1143	1372	1524	1905	2286
	最大	664	862	1060	1258	1456	1753	2050	2248	2743	3238

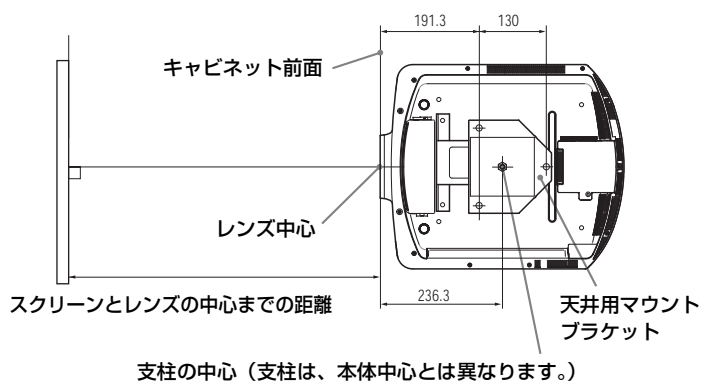
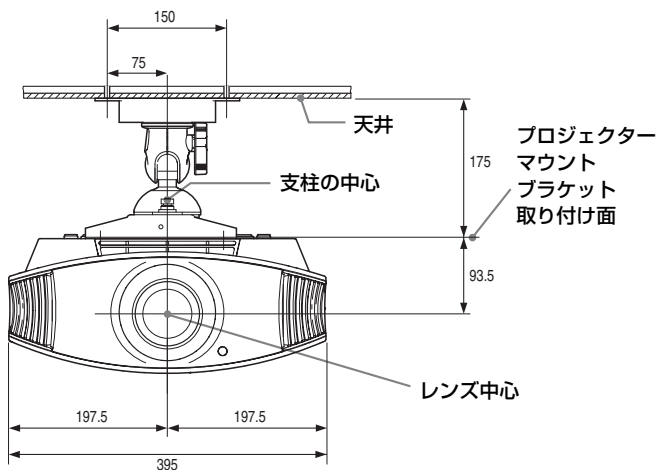
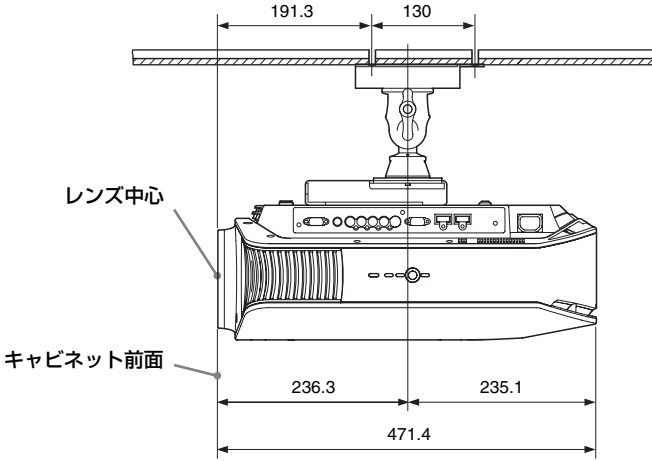
設置寸法の計算方法（SS：スクリーンサイズ）
a 最小値 =38.551 × SS + 143.1
a 最大値 =65.842 × SS + 144.4
x 最小値 =7.62 × SS
x 最大値 =9.8979 × SS + 268.5

プロジェクターサスペンションサポート PSS-H10 の取り付けかた

天井への設置に関して詳しくは、PSS-H10 の取付説明書をご覧ください。また、取り付けは必ずソニーの相談窓口にご相談ください。

ここでは、本機を PSS-H10 を使って天井に取り付けた場合の設置寸法について説明します。

上から見た図

プロジェクターのレンズとスクリーンが平行になるように設置してください。

前から見た図

横から見た図

左右の画面位置を微調整する

用意するもの

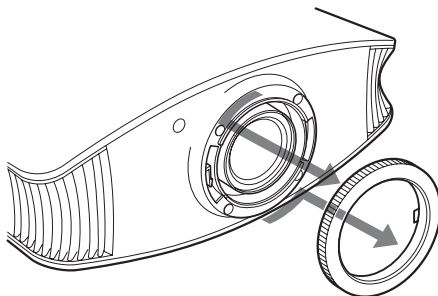
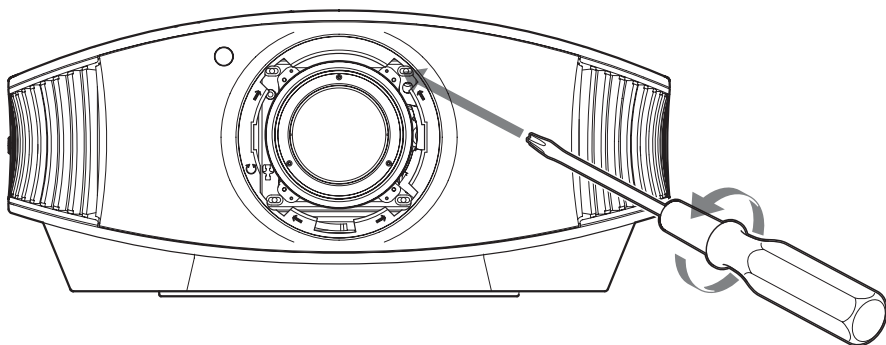
プラスドライバー：長さ 110mm 以上

マイナスドライバー：長さ 110mm 以上

ご注意

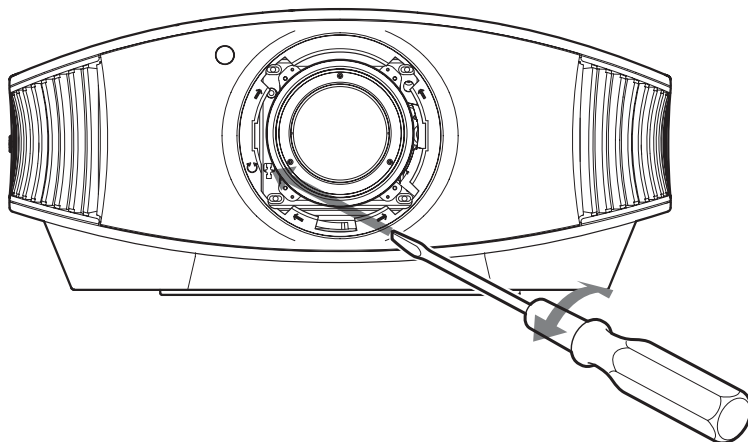
本調整は、設置業者に依頼してください。レンズ等に傷がついた場合、有償での修理となりますので、ご了承ください。
また本調整の際には、レンズを直接のぞかないでください。

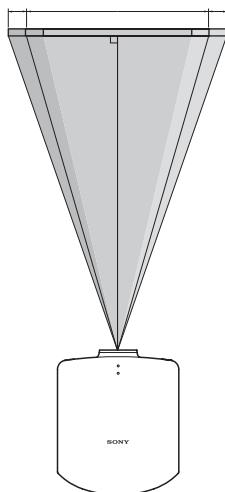
以下の手順で、レンズの中心から左右にそれぞれ約 1 mm レンズ位置を移動できます。

1 レンズの周りにあるリング（ワッシャー）を左に回してはずす。

2 **矢印が示す位置の 4 つのネジを、それぞれプラスドライバーで左に 2 回転させて緩める。**

ご注意

緩めすぎるとネジがはずれる場合がありますのでご注意ください。

3 **床置き時の正投射で（正投射でレンズに向かって）左下にあるレンズ調整の溝部分に、マイナスドライバーを差込み調整したい方向に回す。**

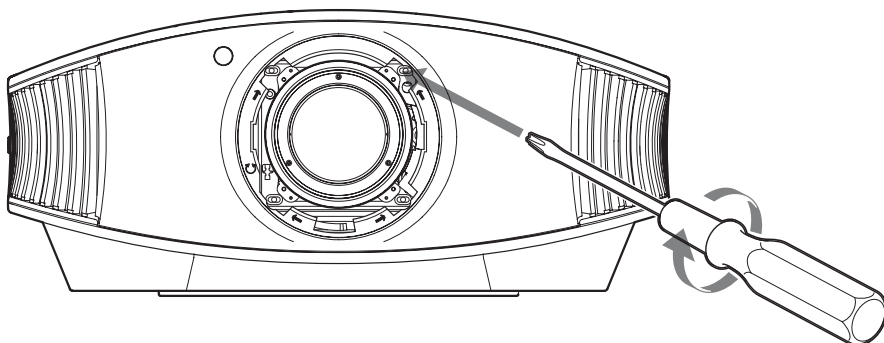
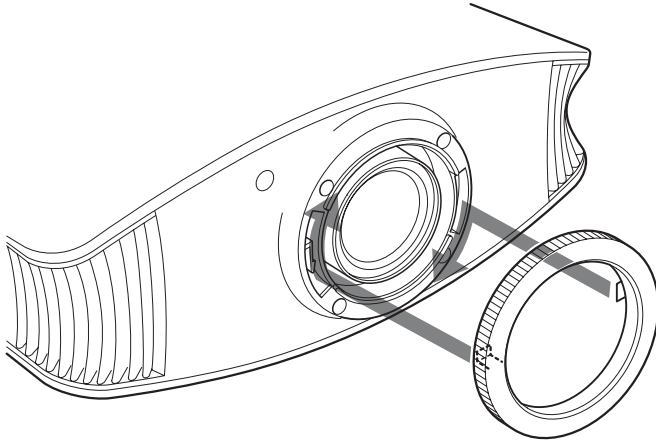
左に回せばレンズは左に移動し、右に回せばレンズは右に移動します。（レンズの移動量：約± 1 ㎜）

微調整量　微調整量

上から見た図

：左側に最大に回したときの画面位置

：右側に最大に回したときの画面位置

16:9 スクリーン使用時　　単位：mm

投影サイズ（インチ）	40	60	80	100	120	150	180	200
（mm）	1016	1524	2032	2540	3048	3810	4572	5080
微調整量	60	90	120	150	180	225	270	300

4 左右のレンズ位置を決めたら、プラスドライバーをレンズ四方の隙間にそれぞれ差込み、4 つのネジをそれぞれ右に回して締める。

5 **リング（ワッシャー）を差し込み、右に回して締める。**

ご注意

左右および上下レンズシフトを併用し、左右レンズシフトを最大にしたとき可能な上下レンズシフトは、最大で上方向に 53% 投影画面を移動できます。

索引

わ

よくあるお問い合わせ、解決方法などは ホームページをご活用ください。	**http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話･PHS･一部のIP電話‥‥ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話･PHS･一部のIP電話‥‥ 0466-31-2531

※取扱説明書･リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「203」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389 **受付時間** 月～金：9:00～20:00 土･日･祝日：9:00～17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

3218492040

この説明書は、古紙 70% 以上の再生紙を使用しています。

Sony Corporation Printed in Japan

http://www.sony.net/